特233
349

改訂アンゴラ讀本

始

特233
349

改訂 アンゴラ讀本

日本アンゴラ産業株式會社編

特233
349

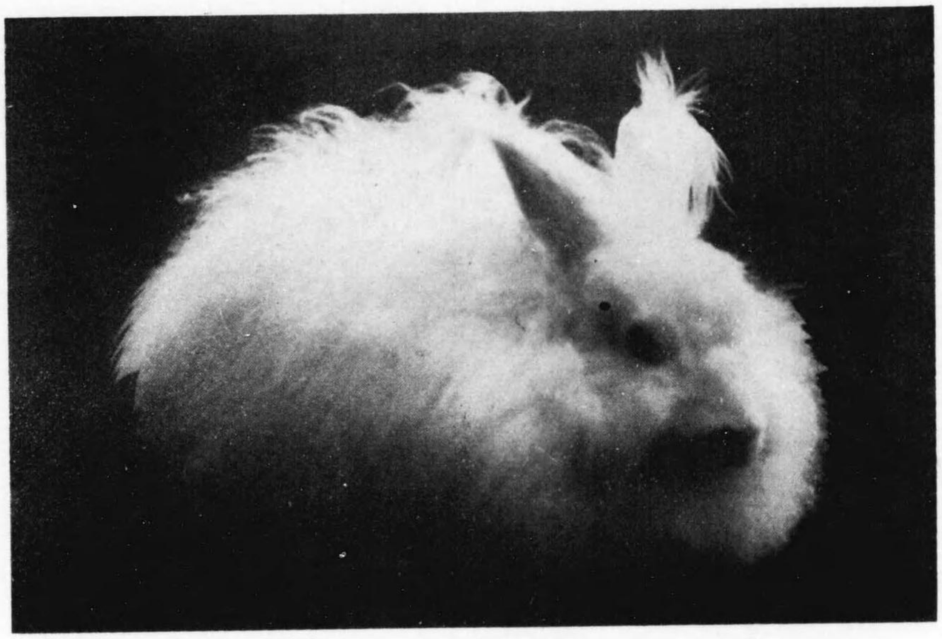
帝國圖書館藏

改訂

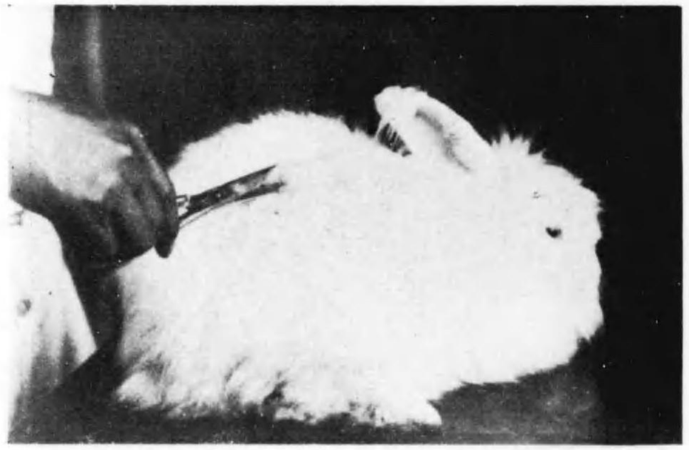
アンゴラ讀本

日本アンゴラ産業株式會社編

帝國圖書館藏



アンゴラ兎



採　　毛

本社撰毛場の一部

本社飼育研究所

同　所　内　部

アンゴラ兎毛製品の一部

序

吾輩は正直なところ今日まで、アンゴラ養兎に關しては何等の認識を持たなかつたのではあるが、偶々有畜農業社山田福夫君よりアンゴラ養兎の波瀾曲折の過程を聞き、且つ本書の内容を一讀してアンゴラ養兎が農山村の副業として好適なると共に、長期建設の重大時局に直面せる羊毛資源に乏しき我國の毛織物原料生産手段として、アンゴラ兎毛の増産擴充を圖ることは焦眉の急務であり、こゝに鑑み農民たるものは一臂の力を輸さねばならぬと信ずるのである。

此の秋に方り夙にアンゴラ養兎の堅實なる發達に多年盡瘁し來つた、日本アンゴラ産業株式會社が本書を編纂してアンゴラ養兎の普及に寄與せんとするは極めて當を得、又時宜に適した企圖であると、吾輩は衷心より敬意を表せざるを得ないのである。

茲に親愛なる農民諸君にアンゴラ養兎の飼育と併せて本書を推奨する所以である。

昭和十三年晩秋

我農生　山崎延吉

（山崎延吉）

序

吾國に於けるアンゴラ兎飼育の歴史は相當に古いものであるが、其の發達は洵に遲々として進まなかつた。其の主なる原因は吾國に種兎が輸入された當初、即ち大正の末期から昭和の初めに亘り殆ど全國的にアンゴラ種兎の賣買業者が、單にこれを高價に賣り付け、純眞なる農家より暴利を貪ることに專念する情勢であつた爲、時經ずして此等商人に對する怨嗟の聲が起り、アンゴラ兎はインチキものなりと云ふ評は殆ど全國を風靡するに至つたのである。又當初は其の飼育による採算の安定性が見出されなかつたのである。然るに近時に於てはアンゴラ兎毛が毛織物の原料として立派な製品となつた事と、更に今次事變に依り諸物資の需給調整の關係等により羊毛其の他の獸毛を外國から輸入することが困難

になつた爲であつて、此の兎毛の如きは今後益々其の需要を增加するものと思惟せらる。

此等の諸點より考察して、アンゴラ兎は農家の適切なる、而も堅實なる副業として奬勵するの必要を認めるのである。本書は吾國に於けるアンゴラ養兎界の先覺者たる日本アンゴラ產業株式會社伊藤勝次氏が、多年に亘る飼育の實際と歐米諸國を視察しての研究等の蘊蓄を傾けて編纂されたものであるから、斯業に關する一切の知識は茲に網羅されて剩す處がない。全國の農家にしてアンゴラ兎を飼養せんとする諸氏に余は好んで此の一書を推さんとす。

昭和十三年十一月

農林省副業課長　見坊兼光

改版のことば

昭和八、九年の頃、アンゴラ養兎の盛んなるにつれて、世間から其の參考書を需められたので、一本を編して『最新アンゴラ讀本』と名づけ、之を世に送つたのであつたが、爾來四、五年の間に斯業は長足の進歩をなし、今日にては最早國策上缺くべからざる事業と認めらるゝに至り、政府に於ても之が飼育の普及、產毛使用の奬勵をせらるゝ樣にまでなつたので、事態は更に一層變つて來た。

斯樣な進歩發達につれて、此の册子の內容も幾分變更增補するの必要が生じたので、茲に改訂版として再び世間に提供することゝした。

吾等の願ひは此の本を賣つて儲けようとか、又會社の宣傳にしようとか云ふのでは決してない。十年餘り之はと思つて精魂を打ち込んだ此の事業の堅實な發達と、之によつて生ずる國利民福を求むる外、全く何物もないのである。

昭和十三年仲秋

編者識す

改訂 アンゴラ讀本 目次

第一編 總論……（一）
第一章 アンゴラ養兎の沿革……（一）
第二章 アンゴラ兎の種類……（三）
第三章 アンゴラ兎の繁殖……（六）
第四章 種兎の撰擇……（七）
第二編 繁殖法……（一三）
第一章 繁殖方法……（一三）
第二章 交配に關する智識……（一四）

第三章　交配方法……（一七）
第四章　姙娠……（二〇）
第五章　二年間の繁殖數……（二三）
第三編　管理法……（二五）
第一章　飼育の方法……（二五）
第二章　兎舍及び飼育箱……（二八）
第三章　成兎の管理……（四二）
第四章　姙兎の管理及び仔兎の育成……（四六）
第五章　分娩……（四七）
第六章　仔兎の生立ち……（五一）
第七章　毛の管理……（六二）

第八章　去勢法……（六九）
第四編　飼料……（七二）
第一章　飼料に關する一般的知識……（七二）
第二章　姙兎の飼料……（八四）
第三章　石灰藻の製法……（八五）
第五編　家兎の病氣と治療法……（八七）
第一章　消化器病……（八九）
第二章　呼吸器病……（九二）
第三章　神經系統の疾患……（九六）
第四章　泌尿器、生殖器及び乳房の疾患……（九七）
第五章　姙兎の病氣……（九九）

第六章　原生虫病……（九九）
第七章　耳及び眼の病氣……（一〇一）
第八章　被毛の病氣……（一〇二）
第九章　惡癖……（一〇四）
第六編　アンゴラ兎毛……（一〇六）
第一章　アンゴラ兎毛の構造及び特性……（一〇六）
第二章　兎毛の用途……（一一四）
附錄
アンゴラ問答集……（一一八）
跋……（一二六）

第一編　總論

第一章　アンゴラ養兎の沿革

私たちがアンゴラ兎といふものを實際に見、又手塩にかけてから早くも十年餘りを經過した今靜に過去を振りかへつて見ると、今昔の感に堪えない。

勿論私たちは、今日あるべきを信じて着手したのではあるが、かくまでに早く本格的な產業にならうとは、當業者たる私たち自身にすらも夢のやうに思はれる。これは全くアンゴラ兎そのものに、このやうに發達すべき素質があつたと同時に、斯業開發の爲に提供された東西先覺者たちの犧牲と、努力の尊さにもとづくことを忘れてはならない。

アンゴラ又はこれに類する長毛種の兎が、我國にその姿を見せたのは、餘程古い事であるらしいが、一部の人々に小鳥やおもとのやうに、一種の流行としてもてはやされ、又眞面目なる人たちによつて、毛織物の材料と考へられ、種兎が外國から輸入され、普及されるに至つたの

は、つい近年のことである。その頃の種兎は一番百圓、二百圓といふ恐ろしく高價なものだつた爲、疲弊してゐた當時の農村では、これを飼育することができなかつた。

昭和六年七月二十八日に農林省から通達された彼の有名な、そして兎角の批評があつた『農家はアンゴラ兎を飼ふべからず、その毛は織物にはならない』などの警告も、今から見れば嘘のやうなことであるが、當時は隨分こたへたものであつて、種兎の値段が急激に下り、ごれが爲に損するもの、廢業するもの、中には親類の縁を斷たれ、夫婦別れするものすらもあつたほどの悲喜劇が演ぜられ、兎は次第に鍋で煮られることになつた。そしてこの儘で進めば、アンゴラ兎は絶えてしまうのではないかとも心配された。そこで私たちはアンゴラ兎飼育の目的は採毛にあるのだから、これはどうしても毛の捌け口を作ることが、即ちアンゴラ兎を活かす唯一の道だと考へて、名古屋の同志を結束し、兎毛の買入を全國的に呼びかけたのである。それから會社を作つて、これに當ることになつた。

最初のほどは、たいした毛も集まらなかつたが、日を逐うて段々と集つて來、從つて飼育も殖て來た。そして會社では、海外へ原毛輸出の途を開くことに努力して終に成功した。又少からぬ犧牲を拂つた結果、兎毛製品も出來上つて、東西のデパートなどで賣れるやうになつた。

さうなつて來ると、世間でも、もうアンゴラ兎を馬鹿扱ひにはしない。段々と之を認めて來て飼育者の數もずつと殖え、毛も多くなる、官廳の方にも分つて來るといふわけで、特に最近では、大きな紡績會社、毛織物會社などで、兎毛工業を開始するやうになり、こゝにいよ〳〵斯業の發展に拍車をかけることゝなつた。

第二章　アンゴラ兎の種類

アンゴラ兎の原産地はトルコの首都アンゴラ地方であるから、この名ありといはれ、又長毛種であるアンゴラ山羊に似てゐるから、かく呼ばれたのだともいはれてゐる。又一説としては各種動物には長毛性變異が起り得る理由から、このやうな長毛の兎は世界の各地に發生し、現に我國では餘程以前、これに類する蓑引兎と稱するものが飼育されたといはれてゐる。だが現在見るやうな品種はフランスに於て作り出され、イギリスにて改良を加へられたもので、その種類としては黑、灰色のものもあるが、白を以てアンゴラ兎の代表的のものと見てよからう。

大部分のフランス系の特徴はイギリス系に比し、同年齢のものに於ては体軀大にして活潑、

頭部を高くもたげ、胸部が著しく發達してゐる。殊に甚しく異るのは毛であつて、成熟と共に粗硬となることはイギリス系よりも早い。勿論かうした現象はイギリス系にも見るところであつて、單に遲速の差に過ぎない。次に耳及び四肢の毛總はフランス系に乏しい。

右の如くイギリス系、フランス系の區別は、極めて大体に過ぎないものであつて、アンゴラ兎はフランスでは副業的に飼育され、イギリスでは共進會用として少數の飼育を見たのであるが、大戰後初めて産業的に研究され、改良さるゝに至つたのである。イギリス系も要するにフランス系の優秀なるものを撰擇改良したるに過ぎない。アンゴラ兎の權威者マクドーガル博士の如き、フランス系の優秀なるものはイギリス系に比して遜色なきことを認めてゐることによつても明白である。

即ち右兩系を比較する場合、イギリス系は改良されたものを主とし、フランス系は副業的に飼育された傾向がある。我國の現在から見れば、アンゴラ兎毛向上の意味から、フランスのやうに副業的ではなく、イギリスのやうに共進會向となるやう、兎毛の品質が本位となることは願はしきことである。

毛の長さに於ても、フランス系はイギリス系に比して短く、且つ毛並が粗い。更に著しく異

るのは形態であつて、イギリス系の標準は雪球のやうなるを理想とし、これに近づくやうに改良するが、フランス系は、かゝる形態を整へることにつとめない爲、毛が背筋で兩方に分れてゐるものをしば〳〵見る。

アンゴラ兎の種類は大体右のやうであつて、唯耳の毛を有するもの（ガァーニツシングタイプ）と、耳の毛を殆ど有しないか、又は甚だ短いもの（プレインタイプ）とがあり、前者は概して産毛量が多いからこれを飼育する方が得策である。耳の毛の有無によつてイギリス、フランス兩系の區別を立てゝゐる人も少くはないが、これは誤である。日本ではアンゴラ兎の審査標準はまだ定まつてゐないけれど、イギリス及びフランスで普通用ひられてゐる標準を示すと

種目	英國採點	佛國採點
毛質（絹糸樣のもの、刺毛なきこと）	三〇點	二五點
長毛と毛質（密で固まつてゐないこと）	二五	三〇
前頭（廣くして頭毛を有すること）	一〇	—
均整	—	一五
耳（軟靱にして耳毛の總々したもの）	一〇	—

色	（純白のもの）	一
四肢	（強靱なるもの）	一
体型と大きさ	（雪だるまの如く固く六封度以上なること）	一五
状態	（榮養よく健康で美麗なるもの）	一〇
合計		一〇〇

六

五

五

一〇

一〇

一〇〇

第三章　アンゴラ兎の繁殖

繁殖とは單に數を殖すといふ意味ばかりではなく、能くその特徴を捉へ、既に改良された体型、能力等を維持して、更にこれを向上せしめ出來るだけ缺陥を去り、理想に近いものを殖すことである。

この方法を誤れば品種が下り、よろしきを得れば優良なものが得られるのであつて、これが養兎業の根本であり、事業の成功不成功は一にこれにかゝつてゐる。

産業的には消費者の需要を察して、新しい品種を作り出すのも繁殖の一であるが、最も肝要なのは、現在の品種を絶えず改良して理想に近づけることである。

實際上の問題としては、如何なる品種でも、その優良なるものと、一般平均的のものとの差は實に著しいものであるけれど、全部の品質を向上せしめ、優良種と一般平均のものとの差を出來るだけ少くすることが肝要である。

この目的を達する爲に最も必要なることは種兎の撰擇である。

第四章　種兎の撰擇

種兎撰擇の方法

次代鑑別――最も信頼し得る撰擇法は、以上述べた繁殖の目的に副ふものを産むや否やを見て鑑別することである。種兎の能力はその外貌のみならず、その出産した仔兎が果して優良なるや否やを檢し、好成績であるものだけを取つて、飼育するのが唯一の安全な方法である。

この場合、容易に知り得るのは雄の能力である。

雄は種兎として壽命の長きものであるから、この方法によつて鑑別する爲に、これを利用す

る期間が長い。

外貌――いづれの兎にあつても、品種の代表的外型を有し、毛皮用種にあつては品種特有の毛並、斑紋を有し、毛は光澤あり密生してゐるものを撰擇すべきことは毛用種も同様である。

血統――祖先の有した型質を明にする血統を記錄して置くことは、有益な資料となるけれども、これを唯一の材料とするのは危險であるから、他の諸點からも考察されねばならない。祖先に重きを措き過ぎるものあるけれども、生物學的には正當なる根據なく、屢々販賣政策として宣傳されるだけのことがある。

遺傳――遺傳が十分明かとなつた、正しい純粹なる種類を撰擇すべきである。

年齢――種兎の理想としては、一年程度のものが一番よいのであつて、若い五、六ヶ月のものでは、仔を養ふことも拙く、且つ早く老衰し或は病に罹り易い。

繁殖力――これは主として遺傳であるが、一般に能く改良されたものでは、さほどにこれを問ふの必要がない。（但し、日本白色種の如きは、大にこれを問はねばならない）勿論繁殖力の大小は飼料の種類、風土によつて異るが、脂肪質に富む飼料を飽食せしめて脂肪過多に陷つたものには、この力少く、又暑氣の甚だしきときには少いのが常である。後軀の發達がよく、

筋肉が引きしまつてゐて、活潑なるものは、概して繁殖力も旺盛である。

健康――種畜の健康は如何なる動物でも重要なる條件であるが、種兎の健康狀態は主として外部的觀察によつて、これを知ることができる。勿論体溫、脈搏等によつて、これを知らねばならないが、初心者にはさうしたことをする必要はないだらう。

即ち全軀の發育良好にして緊張し、各部がよく均衡を得、眼が澄んでゐて大きくめやにが出てゐず、耳は通常立つてゐて、活潑にこれを動かし、顏面活氣に滿ち、毛は密生して柔く、光澤あり、然も各部の毛の長さが均等であつて、粗密なく滑かなること。四肢の位置正しく歩行が迅速であり、爪は若々しく光つてゐるなどの外的條件で容易にその健康を知り得る。病兎はこれに反して、眼、鼻、口、陰部、肛門等に分泌物があり、眼は光澤を失ひ、擧動が不活潑で軟かい糞をすることが多い。

特に兎は糞尿によつて主として健康狀態を知り得るから平常最もこれに注意すべきである。

性質及び成熟

種兎の性質は勿論溫順なることを要す。擧動活潑なれども粗暴にわたることなく、餌をやる

際に手を引掻くなどするのは良い性質とはいへない。又種兎は必ず早熟なるものを選ぶべきである。これは遺傳的素質によることが多い。

年齢鑑別法

年齢を正確に鑑別することは特に困難であるが、現に各國に行はれてゐる方法を列記して參考に供する。

これは主として爪の發育や、それが曲つてゐるや否や、光つてゐるや否や、などによるのであるが、飼育管理の方法、飼育箱の床や敷藁の有無、兎の種類による擧動の活潑、不活潑によつても異るから、爪のみではこれを鑑別し難いが、大体二ケ年以上經過したものは、爪が非常に長く、その先が曲つてゐる。

フランスでは拇指の爪や前肢の腕關節の狀態で鑑別するのが普通である。若い兎は關節をなしてゐる二本の骨の先が少しく離れてゐて、この離れてゐる程度が品種によつて異つてゐるから必ず適中するとはいへない。

生後一年未滿の他の動物の爪は大体滑で鋭いけれども、毛の外部まで伸びて出てゐることが稀なるにも拘らず、兎にあつては生後七、八ケ月位で爪は毛の外部に少しく伸び出てその先が曲り始める。

老兎は眼の窪んでゐるのが普通であるが、これのみで明瞭な年齢を鑑別することも困難である。要するに耳の乾燥、彈力性や粗剛になつた爪及び咽喉の垂肉の多少などを參考として、經驗でこれを判定する位の程度である。

第二編　繁　殖　法

第一章　繁　殖　方　法

繁殖の初期は他の家畜と同様自然増殖するが儘にまかされてゐて、各地方に体型、被毛、その他の特徴あるものが自然に發生した。だがこの特徴は固定しなかつたので、現在の如き品種は存在しなかつた。

年を經るに從つて各地方に於けるこの種々雜多な種類に就き、その優秀なるものを撰擇して交配せしめ、以て理想に近いものを産出したのがその第二期である。

それが近年に至り、遺傳等に關する科學的知識の發達に伴ひ、遺傳形質の同質、接合を行ふことゝなり、所謂品種として呼ばはるべきものが作り出されたのである。

現在はこの與へられた品種を更に向上せしめる時代に入つた。

純　粹　繁　殖　法

品種の特徴を純粹に維持する目的を以て、同一品種又は同種中の比較的遠い血統のものを交配せしめる方法で、如何なる繁殖法を取る場合にも形質固定し、遺傳質の確實なるものを種兎として撰擇することが肝要であつて、現在の優良兎は主としてこの方法による。

近　親　繁　殖　法

この方法は親仔、兄弟、姉妹、叔姪等の如き近い血縁の雌雄を交配せしめるものである。しかしこの種の方法は時として優良なる固定質を確保すると同時に、不良なる疾病、素質の不良体型をも固定する虞ある故、長期間に亘つて、この方法で進むときは却つて体質、性能を劣變せしめるから、悪徴候を見た場合は、速かにこれを中止し、血縁の遠い形質の良く類似した他の固定種を交配せしめて、体質の回復を圖らねばならない。

系　統　繁　殖　法

これは一組の雌雄を基として産出した仔兎に親兎を交配せしめ、さらにこれを親兎に交配せしめ、秩序正しく系統的に繁殖を行ひ或程度まで來れば、相當極端な近親を交配せしめても、

安全であるといふ方法であるけれども、些か論據の不確實なるところもあり、且つ結果は必ずしも安全といひ難い。

第二章　交配に關する知識

兎は一般に成熟早く、容易に繁殖する爲、從來はその交配につき深く注意を拂はなかつたので、仔兎が相當に大きくなり發情すれば直に交配せしめた。だが他の家畜から推して少くとも八ケ月を經過した方が適當であるだらう。兎が發情するまでの期間は品種、季節、榮養狀態によつて異ることはいふまでもない。

ハンモンド氏の實驗によれば三、四月に生れたものは受胎可能となるまでに八ケ月、十一、十二月に生れたものは五ケ月であるが、前者は兎に取つて發育に不利なる酷暑期を經過し、後者は發育に有利なる春季近くに生れた爲であらうことゝ思はれる。

尤も酷暑乃至嚴寒の交配は避くべきである。又發情した爲交配せしめるも必ず受胎するとは限らない。姙娠中及び疑姙娠中にも交配するものもあるけれども受胎せぬのは明である。

受胎可能の時期

これは榮養狀態、温度等によつて影響すること多く、春季は相當旺盛に發情し、酷暑には緩慢となり、秋季には比較的定期的に發情するが、受胎率の一番高いのは矢張春秋二季である。受胎の完成は發情後約一週間であるが、時の狀態によつて多少の差異がある。分娩直後三日間内外が一番受胎可能の時期である。

發情の徵候

發情の徵候は雌兎にあつては、眼に活氣を呈し、毛は光澤を增し、擧動は粗暴の如く見え、藁などを喰へて箱の中を駈け廻り、箱板や床を頻りと嚙み、且つ後肢にて、これを叩きなどして寸時も靜止することなく、陰部が紅紫色を帶びて來ることによつて知られる。

雄は衰弱、老衰等、その他特別の事情のない限り常に用ひられるが、發情特に旺盛なるときは陰部から粘液を分泌する。

かゝる徵候は必ずしも的確なものではなく、榮養狀態、季節、その他を考慮して推定すべき

だが、異性に近づけて試みることが一番適當である。

交尾適齢

品種、氣候、風土、飼料等の關係もあるが、一番理想的、且つ効果的なのは生後八ケ月より一ケ年乃至二ケ年である。

愛玩用としては例外だが、普通は老齢に至るに從ひ、毛も劣變するので、若兎を選んで增殖し、老兎は惜氣なく棄て去るべきである。

交尾季節と增殖法

交配は雌兎さへ發情すれば、四季これを行ひ得るも、アンゴラ兎の如く、特に若い間に良毛を多く產するものは、生後二十ケ月位までに、最大なる產毛量を得るやう心がけて繁殖すべきである。

現在のアンゴラ兎の毛は他の兎の毛や皮の如く、價格に變動少く、一ポンド概ね平均五圓見當であるが、毛の販賣、損益の爲、繁殖時期を選ぶ必要はないけれど、毛用種は他種の兎より

幾分か多くの勞費を要するから、繁殖の時期を選んだ方がよい。

第三章　交配方法

自然交配法

前述の如く殆ど何等の人工的幇助を加へないで、交尾せしめる方法を自然交配法といふ。だが塲合により交尾期に入つても交尾を避けるものがあるので、幇助を必要とする塲合もある。

人工交配法

人工交配とは交配に際し人工的幇助を與へる方法をいふ。例へば雌が未經驗で發情してゐても、又成兎でも長く交配を經驗しなかつた爲、往々交尾を忌むやうな態度を示し、雄から免れんとして駈け廻り、或は一隅に後軀を伏せて容易に動かないものもあるから、かゝる場合には幇助を與へて、交尾せしむるが如きである。人工交配は俗に『糸かけ法』ともいはれ、麻糸等にて、雌の尾の先きを結び、背中に沿ふて緩く糸を頭の方に引き、同時に右手の人指し指を兩

耳の中央にさしこんで、兩耳を掌や指で壓へ、左手で雌の尻を輕く持ち上げて雄に提供し、しばらく靜にしてゐると完全に交尾する。熟練すればたゞ手だけで糸を用ひず簡單に出來る。中にはこれが慣習となつて人工交配法によらねば交尾しないものもある。

過去においては不自然なる交配法を取つたが、現在では唯左右兩手を用ひ、雌の尻を雄に向けると、雌自身が輕く尻を持ち上げるから、この際速に左手を引き同時に右手をも輕く離す。この方法によれば九〇パーセントまで正確に受胎し分娩した仔兎の死亡率も低く發育もよい。委しく説明すれば、先づ雌兎の頭を輕く撫で十分に心の靜まるのを待ち、右手で兩耳と背中の上の方を持ち、左の掌で腹を受け、雄の目の前へ雌の尻を向け、雄の挑みかゝるのを見計らひ腹を受けてゐる左手の拇指と人指し指とで右後肢の内股を受け、小指と藥指とで左後肢の内股を受け、又中指で尻尾の根元より少々上を雄の陰部の邪魔にならぬやう輕く持ち上げ二、三分靜に見てゐると、腹から自然に後肢の方が輕く上るやう左手に感ずるから、時を移さず即刻に左手を拔き取り、同時に耳をつかんでゐた右手をも輕く離せば、雌は奇聲を發して横倒れとなる。この時が完全に交尾したのである。

早交け法又は追交け法

早交け法とは分娩後二、三日間が一番受胎可能なる爲、行はれる方法である。仔兎に乳を飲ませつゝ姙娠せしめるときは、母体に悪影響を及ぼすから、仔兎を仮母に預けねばならない。この方法は勿論年中絶間なく行ふものではなくて、春より夏にかけ、所謂繁殖時期に適當に行ふべきである。

追交け法とは母兎の斷乳と同時に休養を與へずして、次の交尾を行はしむる方法である。この方法は、從來在來種には多く行つた方法であるが、右二つの方法はその時の雌兎の榮養狀態がよく、すべてに於て健康狀態でない限り、有害であることはいふまでもない。季節が適當で飼料も行き屆いてゐれば、さほどの悪影響を見ないが、初心者は試みない方が安全である。尙換毛期には種兎が常態でないから、繁殖させるには望ましい狀態でないことを注意せねばならない。

交配上の諸注意

一、交尾は成るべく午前九時乃至十時頃に行ふこと。

二、雌を雄の箱に入れ、交尾すれば直に元に戻すこと。
三、靜に保つこと。
四、雄を濫用せず一週間に二回位を適度とすること。
五、追交け、早交けは雌の榮養と健康との狀態により、春秋の如き特に繁殖時にのみこれを行ふこと。
六、酷暑、嚴寒には成るべくこれを避けること。
七、交尾の際には餌鉢等を取り去ること。
八、交尾は標示札を貼付し、正確にこれを保ち、系統的に行ふこと。
九、種兎は生後八ケ月以上經過したものを用ひ、雄一頭に對し雌五、六頭を限度とする。
十、換毛期は交配を避けること。
十一、受胎の有無を見分け、受胎しないときは、直に第二回の交配を行ふやう準備すること。
十二、アンゴラ兎は特に陰部の毛を刈り交尾を容易ならしめること。

第四章　姙　　娠

通常一回の交尾で姙娠するが、往々にして姙娠しない場合があるから、早くこれを確かめなければ三十日だけ繁殖が遲れ且つ飼料が不經濟となる。

姙　娠　の　鑑　別

一、姙娠した兎は溫順となり、性慾を停止するものもあるが、尙發情するものもあるから、これで見分けることは確實ではない。
二、交尾後十日を經過すれば大体姙娠を確め得る。姙兎の子宮のあたりを靜に探つて見ると、兎糞大のものが手に觸れる。この場合强くこれを探つたり、粗暴に取扱ふときは往々にして胎兒を殺したり、流產させることがあるから特に注意を要する。初心者には好ましからぬことである。
三、交尾後約一週間を經過した頃、又雌を雄の箱の中に入れると、姙娠してゐれば雄を嫌ふ。これによつて大体姙娠してゐることが分るけれども、中には姙娠しないで發情の程度が微弱であるか、又は習癖によつて雄を嫌ふこともあるから、唯これだけでは姙娠の有無を鑑別することはできない。

四、初期の鑑別は相當困難ではあるが、分娩が近づくに從ひ乳房も大きくなり、又紅色を呈して來るから姙娠が明白となる。特に二十日も經過したときは腹が目立つて來るから一目瞭然ではあるが、中には脂肪過多なる爲にこの徴候を示すものもあるから注意せねばならない。

尙姙兎は十五日—二十日頃になると、中巣と稱し、分娩時と同樣に藁を喰へて巣を作るものであるが、中巣を作らずに直に分娩するものもあるから油斷はできない。

以上いづれかの方法によつて姙娠の有無を知つた上、箱に十分の藁を入れ、雄の番號なり、名前を標示札に記錄し、不姙ならば改めて交尾せしむる。

初心者に取つて最も容易にして、且つ確實なる方法は、交尾前に雌の目方を計つて置き、交尾後十日又は二十日を經て再びこれを計ることである。その重さが著しく增してゐれば姙娠してゐるのである。

分　娩　日　數

分娩日數は交尾した翌日から數へて三十一日を普通とするが、品種或は季節により多少の差異を見ることがある。エヂンバラ大學家畜研究室ビッカード氏の統計によれば、その日數は三一・五日である。尙氏の統計によれば、アンゴラ兎は一腹平均五・三六仔兎を產む。

仮母を使用する場合の注意

分娩後に使用する仮母も同日位に出產するやう準備し置き、分娩した仮母の仔を棄てアンゴラ兎の仔をその巣の中に入れる。この際は仮母を一時取り出し仮母の尿をアンゴラ兎の仔に塗りてこれを仮母の巣に入れる。何ぜなら兎は臭によつて己の仔でないものは、喰ひ殺す場合があるからである。そして美味な餌を與へてやれば安全にこの仮母に預けることができる。

だが、この場合必ずしも仮母の尿をアンゴラ兎の仔につけなくとも一時仮母を箱より取り出し三十分乃至一時間ばかり運動せしめてゐる間、仔兎を取換へて置くならば大体危險なくして成功する。それでも心配とあれば前述の方法を取る。

仮母には普通在來種を用ひる。

第五章　一年間の繁殖數

種兎一番ヨリ始メタル二年間ノ繁殖數

（一年四回一回平均四頭ト見テ）

親兎2	初年度												二年目												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	頭數
（表中產兒ノ雌雄未定ナルモ各半數宛ト假定ス）	4			4			4			4			4			4			4			4			32
								8			8			8			8			8			8		48
											8			8			8			8			8		40
														8			8			8			8		32
																	8			8			8		24
																				8			8		16
																							8		8
															16			16			16			16	64
																		32			32			32	96
																					48			48	96
																								64	64
											親兎共合計四十二頭														520

親兎共合計　522頭

第三編　管理法

第一章　飼育の方法

飼育法には放飼、舍飼、箱飼の三樣式あるが、現今は殆ど全く箱飼である。

放飼

山林又は草原地を利用して飼ふ方法であつて、周圍は六尺餘の一寸目の金網を張りめぐらし更に下方地中を三尺位堀り下げて、金網を張るかコンクリートで固め、兎の逃走又は外敵の侵入を防ぐ。そして內部的には土地を起伏させ或は植木を植へて、自然の氣分を味はゝしめる。この方法は廣い土地の面積を要し、逃走する兎多く又外敵に侵される可能性があり、仔兎時代には弊害少きも、親兎となるとき亂交尾を行ふ爲、繁殖力衰へ罹病率を增し、鬪爭による損害疾病等、管理に種々の缺陷ある爲、殆ど行はれない。勿論夜は兎舍を設け雨露を避くる。

舍飼

舍飼は農村では從來在來種によつて行つてゐるものもあるが、養鷄と同樣晝は運動場に放ち夜は舍內に飼育する。

舍飼は放飼と略同樣である爲、我國にあつては適當な方法とは思はれない。

箱飼

箱飼は兎舍を設けて箱の內に兎を收容する。言ひかへれば室內飼育法や戶外に箱をならべる方法即ち舍外飼育又は移動式等の方法であるが、いづれも皆一頭づゝこれを箱に入れて飼育する。

集團飼育法

これを詳述するには相當の紙數を要するので、こゝにはその大体を述べるに留める。この方法は將來に於て飼育者相互の研究に待つべきものであり、科學的、組織的に實行されるやうになつたのは、我國ではつい最近のことである。單に群居的に飼育されたことだけならば、我國に於ても在來種について以前から行はれてゐたが、かゝる粗放な飼育法は今や根抵から建て直さなければならない。イギリスなどでは兎は大体集團飼育の動物に適してゐるといふ見方に意見が一致してゐるが、實際の飼育者はまだこれを採用してはゐない。

集團飼育法の主眼とする點は兎毛を大量に、しかも經濟的に得ることである。これによつて經費は節約し得られるだらうが、設備その他がそうも安價にでき上がらうとは思はれず、且つ成兎を一時に組織變へすることも考へ物である上に、純白なるべきアンゴラ兎の毛を汚す大なる缺點がある。

尙集團飼育は離乳期より成兎に至るまでの所謂若兎の群居生活を意味し、しかも成長の相等しきものを群居せしめるのだから、これによつて種兎又は優良種又は大きな兎を作ることは困難である。さうした獨特のものを作らうとするならば、是非とも箱飼によらねばならない。經費の節約、飼料の經濟はこれを認め得ても、尙箱飼について不必要なる管理をなさねばならぬ缺點がある。

去勢もまた必ずしも集團飼育には絕對安全とはいひ得ないので更に研究を必要とする。雌兎

のみにあつても、一度交尾した兎を集團の一員として置くことは如何なるものであらうか。

又これによると養兎は、種兎と採毛用兎との區別は、これを明白にして置かねばならない。

箱飼では三インチ程度の毛を採ることはさほどに困難ではないが、集團飼育では、それは二インチ内外に目安を置いて進むべきであらう。

第二章　兎舍及び飼育箱

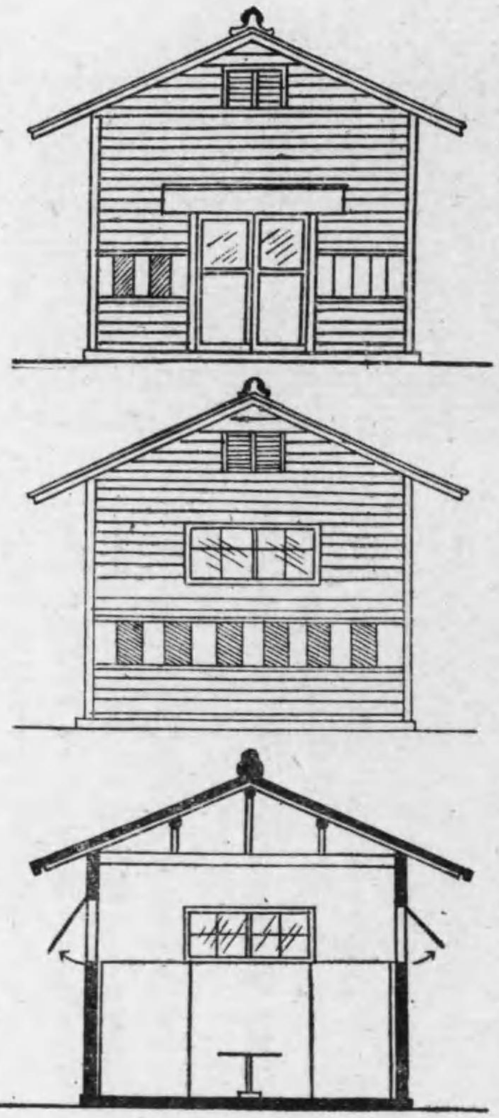
現在の飼育法は飼育箱を基礎とし、氣候と飼育箱の構造如何によつて、必ずしも兎舍を必要としない。

我國では最近戸外飼育即ち屋外に箱をならべて飼育する式を取り、相當に好成績を擧げてゐる。だが本邦の一般的風土、氣候を基として考へるなら、兎舍を設けて飼育箱に收容するのが管理上便宜であらう。

そして一般の副業飼育には納屋の一隅、居宅或は土藏等に片廂をかけただけでも、これを兎舍として利用し得られるが、利用すべきものがなければ簡單な兎舍を設けねばならない。

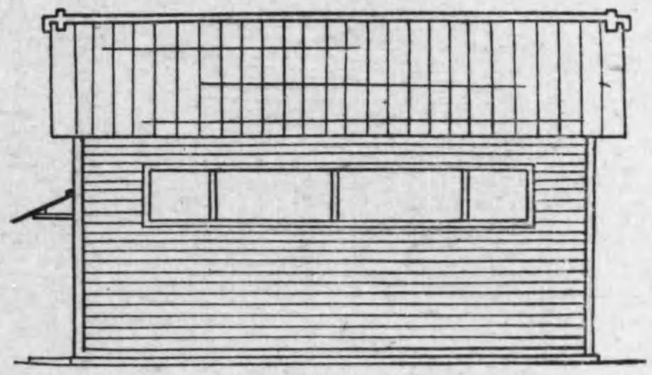
兎舍の設計

先づ位置の選定が一番重要である。



兎舍の正面　兎舍の裏面　兎舍の斷面

面側の舍兎



一、位置――東或は南に面した場所を選び、排水よく乾燥し、建築し易い平地がよい。

北方に落葉樹の蔭にて夕陽を遮り、寒風を防ぐのも便利である。地味が相當に肥え、飼料を生産し將來擴張し得る場所ありや否やを考慮すべきである。

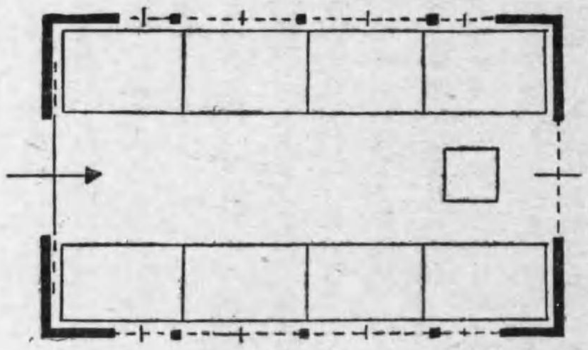
兎は風雨、强烈なる直射日光から保護すれば寒暑に堪え易い。

要するに南乃至東南に向けるのが適當であるが、場所の位置により、必ずしもこれに捉はれる必要はない。

大規模のものでは採光、通風に注意し、衛生狀態と管理の便宜から方向を決定する。

二、床――最も理想的なものは地下室を設けてコンクリート造りとなし、その上を兎舍として床を板張りとする。かくすれば舍内の乾燥に遺憾なく、地下室は飼料の貯藏等に利用し得られるが、經費を相當に要する缺點がある。地下室を設けなければ床はコンクリートが第一で板張り、土間の順序である。

面斷横の舍兎



三、屋根――屋根は亞鉛板を利用するのが簡單であり、永久性を有するものであらう。暑氣は天井板と亞鉛板の間に麥藁を敷いて防げば十分である。

四、壁――土塗りが適當である。また二重板としてその中に鋸屑をつめると夏は涼しく、冬は暖いが濕氣を呼ぶ虞がある。板張りでも差支へはない。

五、採光と換氣――舍内の衛生狀態及び管理の便宜から、採光が十分でなければならぬ、屋根より採

光するのも良法である。

直射日光は毛の色澤を褪せしめるので、成兎には強いてこれをあてる必要はないが、仔兎の如く發育中のものには直射日光がよいことは幾多の實驗によつて證明されてゐるから、同一兎舍内にも成兎は直射日光のあたらぬ場所、發育中のものはこれのあたる場所に置くやうに注意する。

換氣については空氣は常に氣流を起さない程度に流通せしむることが肝要である。兎舍の上部を廻轉式となし下部を無双窓式にするのもよい。

六、温度と暖房裝置――寒さは毛質をよくし、密度を大ならしむるから高原地方に飼育される兎の毛がよいのは周知の事實である。これは温度と乾燥との關係にあると考へらる。

暑さはよくないと思はれるが、最高の暑さが何度までよいかは研究の餘地がある。冬季舍内を人工的に暖かくする設備は成兎には無用に近きものと思はれるが、仔兎には相當の効果がある。

七、その他――舍内の設備はその一部を區切り、飼料、藥品、掃除用具を置くやうにする。又一個のテーブルがあれば刈毛をしたり、秤器を置くに便利である。病兎を收容する所を設け

ることも必要である。

飼育箱は濕氣を避ける爲、直接に地面に置かず、少くとも五寸内外の台を置くか、又は足をつける。積重ねる箱は作業の上から考へて、日本人は脊が低いから三層位が適當だらう。

飼育箱の一般的條件

一、飼育箱の大小型式で均整を缺くものは、外觀上不体裁なるのみでなく、兎舍に配置するにも不便だから、如何なるものを採用するにしても出來るだけ均整ならしめる。

二、掃除し易く、容易に清潔ならしめ得ることが必要で排尿設備をする。

三、隙間風を防ぐ、隙間を漏れる風が侵入すると、兎は風邪をひき易い。

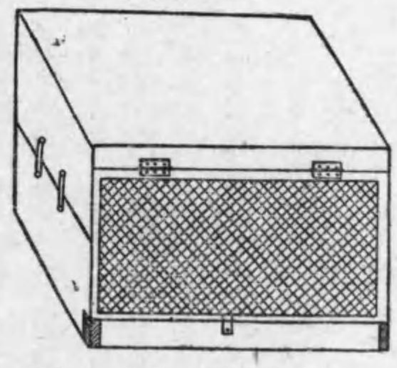
四、箱は餌をやるに便利なものを用ひる。

五、箱はなるべく大きいものがよい。

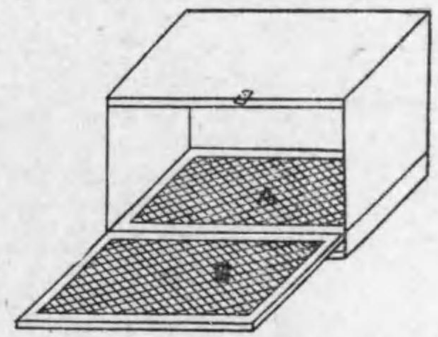
飼育箱

副業的飼育では、ビール、マツチ、煙草、茶等の空箱を少しく加工して、これを利用すれば

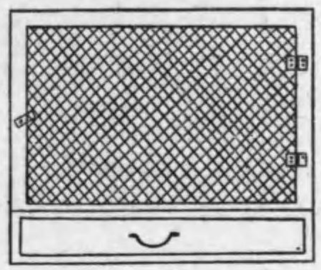
上開飼育箱



下開飼育箱(A金網床・B前戸)



横開抽出付飼育箱



よいが、管理の便利を主とすれば、これにふさわしいものを作る。

一、形狀――箱の大きさはなるべく大きいのがよい。

前戸は金網張が多い。左右或は上下に開くやうにするが、最近は作業の便利を主として、下に開くものも多く見るが、蝶番の破損し易い缺點がある。

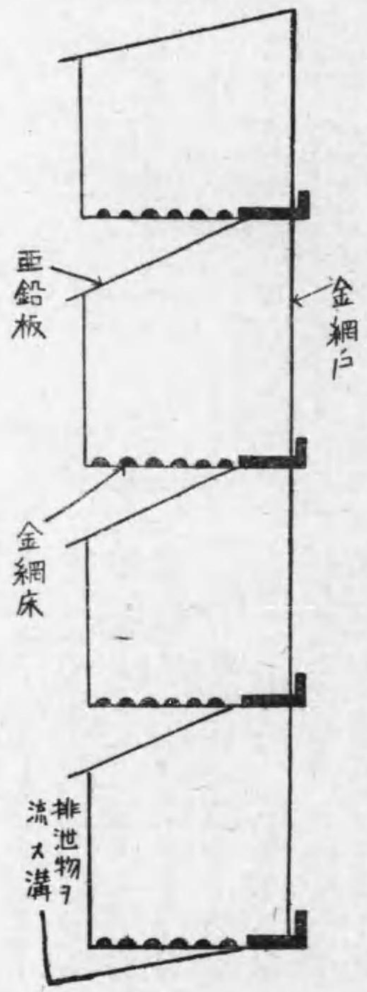
場所、段數等の關係で許されぬ場合は、兎の生活に支障のない限り小さいものを作つても、

相當多くを收容し得られるので、左記の大きさで作ればよい。だが餘りに小さいのは兎の發育上よくない。間口二尺八寸、奥行一尺七寸、高さ一尺五寸位が一般に用ひられてゐる大きさであるからこれに準じて作る。

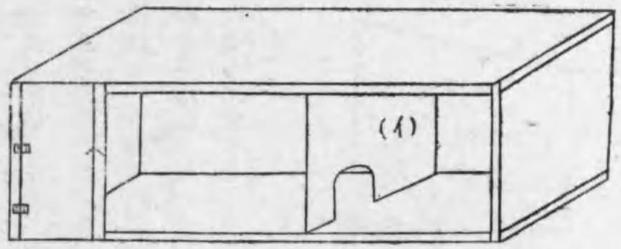
二、構造――飼育箱には一個づゝのものもあれば、連續式のものもある。

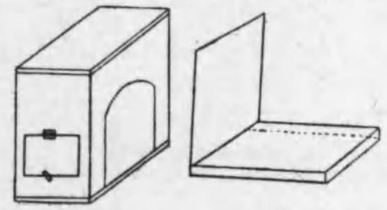
金網の目は蛇、鼠の害を防ぐ爲に五―六分以下とし、枠の內部の緣から張り、兎が枠を嚙じらぬやうにする。

複床式側面



産室育仔箱（イ）は産室仕切板

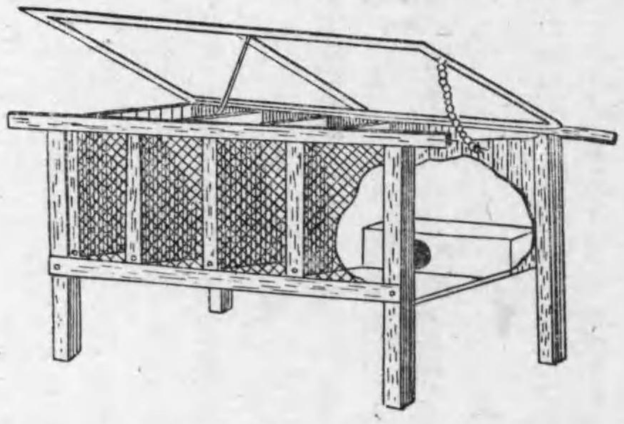




飼育箱を重ねた場合に困るのは糞尿の始末である。單に板を張つただけでは非常に掃除の回數を多くし、清潔にしなければ毛を汚す虞あり、又非衛生的である。單床式はこのやうに多くの缺點があるから二重底即ち複床式を用ひて上床に尿の溜らぬやう下床にてこれを受ける。即ち上床は金網を用ひるか、竹又は目拔板にて幅四—五分の隙をあけるやうにする。金網の目には六角及び四角のものがあるけれど、六角は結び目が多い故、四角の方がよく針金は太い方がよい。

兎は箱の後で排尿するから、抽出しにするか、又は箱の後をやゝ斜にして下で受ける。複床式では下床を亞鉛板とし、後方に傾斜せしめて、樋より流し兎舍の溝に集るやうにする。

舍外飼育箱



姙兎を收容し、分娩、育仔せしめる爲の産室育仔箱は通常の飼育箱よりも大なることを要す。高さ、奥行は飼育箱と同一にし、間口を二分の一廣く、その部分を産室に充てる。

内部は前圖の如く、産室との間を板にて仕切り、外部からは仔兎の發育は自由に見られるやうにし、或は別に巣箱を作り、その都度出し入れの自由に出來るのも一策である。だが巣箱等の特に必要なる場合は冬である。その他は單に正面の一部だけを新聞紙などで覆ひ兎を安心させる程度でよい。

舍外飼育箱に用ひる箱は、舍内飼育のそれと大同小異であるが、唯舍内箱と異る點は、風雨を凌ぎ得る工夫をすると共に運搬に便なるものを要す。

附屬品としては別にこれと言つた特殊のものを必

要としないが、食器及び草架を設けなくてはならない。

草架は綠草の經濟と清潔の點に於て必要である。

食器は重い鑄物を選ぶべきだが、陶器類でも差支へない。時々洗つて清潔にせねばならない。

給水器を設ける人もあるが、これは兎の習慣性に從ひ取捨いづれでもよい。

その他、消毒噴霧器、掃除用具を設備すれば十分である。

飼育箱の掃除

兎は特に清潔を好むものであり、尿も一定の場所即ち後方の一隅を選んでするから、適當に掃除すれば、決して不潔にはならず、從つて惡臭を發しない。掃除をしないと、糞が堆積しアムモニア瓦斯を發生して、各種の障害を起す。

排泄設備

兎の排泄物即ち糞尿の處理は決して輕視すべきものではなく、これを利用して、採毛以外に利益を擧げねばならない。唯排泄物を如何に處理すべきかゞ問題で、飼育の項に述べた通り、箱の底を複床式となし、排尿を下床に集め或は流出させるのが便利である。そしてこれを自給

肥料として別途の利益を擧ぐべきである。

すべて上床には藁を十分に敷く、藁は臭氣を吸收するのみならず、兎の飼料ともなり一石二鳥の利益である。

掃除——掃除の回數はその設備にもよるけれど、夏は隔日、冬は毎週一回乃至二回が適當である。養兎成功の秘訣は掃除にありといふも過言ではない。

箱の消毒——病兎を收容した箱は掃除した後、必ず熱湯或は消毒劑を撒布し、藥臭の拔けた後、敷藁を入れて兎を收容すべきである。

排泄物の利用

兎の排泄物は敷藁と共に堆肥として實に價値ある肥料となる。有畜農業の高唱されつゝある今日、養兎の副業的價値はこの堆肥を巧に利用し得る點に存する。平常箱の中から取出す廢棄物は一般堆肥と同樣に堆積し、時々盛り返へしを行ひ充分に腐敗せしめて肥料にするがよい。

兎の糞尿は窒素、燐酸、加里の三成分に富み、水分少く、濃厚なる肥料であつて、養蠶地の桑栽培や果樹の肥料に持つて來いである。又蔬菜類、特に葉菜類の肥料として價値あるのみな

らず、除虫の効力があるから花卉類の栽培に愛用される。

その肥料價値はこれを左に掲ぐる他の家畜の排泄物と比較すれば一目瞭然である。

種類要目	水分	窒素	燐酸	加里
兎 糞	六六、六〇	二〇、五〇	一一、二〇	一、七〇
〃 尿	五五、四〇	九、二〇	一一、二〇	二四、二〇
牛 糞	八三、〇〇	〇、二九	〇、一七	〇、一〇
〃 尿	九三、〇〇	〇、六〇	痕跡	一、三〇
馬 糞	七五、八〇	〇、四四	〇、三二	〇、三五
〃 尿	九〇、〇〇	一、五〇	痕跡	一、六〇
豚 糞	八二、〇〇	〇、六五	〇、二五	〇、三〇
〃 尿	九七、五〇	〇、三五	〇、一〇	〇、七五
羊 糞	六五、五〇	〇、六〇	〇、三〇	〇、一五
山羊 尿	八七、五〇	一、九〇	痕跡	二、三〇
鶏 糞	五六、〇〇	一、六〇	一、七〇	〇、八〇
鶩 糞	五六、六〇	一、八〇	一、七〇	一、一〇

（農林省農事試驗場分析表によるる）

兎糞尿の利用が土地を肥し、酸性土壌を改善するにあづかつて大に力あることは、他の厩肥の場合と同様である。示村園主示村慶太郎氏の談によると、横濱市杉田附近は有名な花卉園藝の栽培地であるが、近來カーネーションの栽培にアンゴラ兎の糞尿が特効あると傳へられ初めたので自園の爲に用意してあるものまでを奪ひ合ひで持ち去られ、石油箱一杯が十五錢になるから、日に三杯近く生産するので、思ひがけぬ收入になつてゐるといふ。

標示札

姙兎用表札

品種名	番號					摘要
	交尾雄兎ノ番號	交尾期日	分娩期日	母仔ノ狀態及數	離乳期日	

種雄兎用表札

品種名	番號					摘要
	系統	生年月日	初交尾年月日	交尾慾ノ狀態	特種習癖	

種母兎用表札

番號	
品種名	
系統	
生年月日	
初交尾及初分娩ノ年月日	
産仔數	
習癖	
摘要	

一般生産兎用表札

番號	
品種名	
系統	
生年月日	
採毛月日	
採毛量	
特種習癖	
摘要	

箱の外部に兎の番號、生年月日、交尾日等、飼育上參考となるべき事項を記入し置き、繁殖の參考とする。

第三章　成兎の管理

兎の取扱ひ方

從來兎の兩耳を持ち上げ、或は胴体を丸摑みにして抱き上げ、又は背中の中央を持つてぶら下げるなどしたが、かくするとき兎は後肢で跳ねかへり、暴れる時手を引搔かれる虞れがあるからいづれの場合でも、親切叮嚀を旨とし背中の中央部よりやゝ前の方、即ち肩胛骨から後頸部の皮を持ち上げるがよい。又幼兎は靜に掬ふやうにし、姙兎は出來得る限り腹をおさへぬやう注意し、左手にてこれを脇に挾み抱きかゝへる。

兎は至つて臆病だから、特に叮嚀に取扱ふことが肝要である。

被毛の清潔

他の兎でも毛が汚れては値段が下る。特にアンゴラ兎は毛を採るのだから、毛をきれいにして置く必要がある。

換毛期の注意

兎の毛は絶えず新陳代謝して、毛の拔けない時期は殆どない。生毛が拔けかはり、兎が成熟してからも春秋二期に毛が生へかはる。この時期に毛が生へかはるのにも、早い遲いがあつて

一様でなく、或は一部分だけに止まる場合もあるが、櫛を入れて毛がはりを促し得る。

この毛がはり時には、最も冒かされ易き病氣は感冒である。急激なる溫度の變化、隙間風の侵入などがその原因となるからこれを防ぐのは勿論のことだが、同時に新鮮なる空氣も必要であるから換氣に相當注意せねばならない。

次に重要なのは飼料で、新しい毛が生へるには平日よりも多く榮養物を攝らしめる必要がある。でないと體力が消耗し感冒に侵かされ易い。前述の如く交尾を避けるのもこの理由からである。

飼養管理上の注意事項

一、兎舍は出來るだけ靜にすること。
二、犬や猫を近づけぬこと。
三、掃除日を規則正しくすること。
四、兎の鼻、眼、耳の元及び內耳に注意し、異常を發見すれば直に處方を施すこと。
五、舍內の換氣を十分にすること。
六、溫度の激變を避け、舍內の溫度を大差なきやうにすること。
七、濕つぽくして置かないこと。
八、兎舍及び飼育箱を特に淸潔にすること。

收容兎の雌雄數の割合

別に幾頭とは決定してゐないが、雄兎の交尾能力の强弱、雌兎の分娩回數の多少によつて決定されるべく、雄兎に對し雌兎の多過ぎるときは、雄兎の精力は自然減退し老衰期を早め、時には腰のたゝぬこともある。

雄兎は一週間に約二回程度使用し得るものであつて、雄兎一頭に對して雌五、六頭位が安全である。そして一日中何時頃が一番よいかといふに色々の說はあるけれど、一日中最も元氣旺盛なときは午前九時から十時までが一番よいと思はれる。

交配に際して長時間雌雄を同居せしめることは禁物で、雌雄兩兎の心身を過勞せしめ、時には相互に嫌ひ出して、鬪爭することもあるから精々長くて五分位に止め、交尾濟みの上は直に取り出すべきである。普通五分間位で二回は交尾する。

交尾の際には雌を雄の箱に入れる。雄を雌の箱に入れると、箱の中の異臭を嗅ぎ直に交尾しないことがあるから、必ず雌を雄の箱の中に入れる。交尾後は雌が奇聲を發して横臥し、後肢で床を打ち交尾完了を示すことは既述の通りである。

交尾は二回續けて行はしめる。五分間に二回行はぬときは、一度雌を雄から分離し改めて入れる。この場合極く靜に保つべきはいふまでもない。

第四章　姙兎の管理及び仔兎の育成

姙兎の管理

絶對安靜を要す。姙兎の取扱ひ方は特に最大なる注意を要す。

分娩の準備

姙兎は分娩育仔箱に收容する。巣箱の差入れ自由なるものは、交尾後一週間位の間にこれに入れ、早くその箱に馴れしめる。

分娩期が近づくと姙兎は巣作りを始める。普通は交尾後姙娠したものは中巣と言つて、十五日頃一度假の巣をつくる。中にはこれをつくらないものもあるが、作らぬからとて流れたとは限らないので、前述の用意だけはして置くこと。

姙兎は時として分娩日にも巣を作らず、毛も拔かずに、こゝかしこに一頭づゝ散り〳〵に分娩し寒氣の爲に凍死し、又は踏みつけたりなどして仔兎が往々死ぬ場合があるから、さうした兎は二回目からは注意して、出産一、二日前から藁をやはらげ、又は綿などを用ひて摺鉢形の巣を作り一方の口を開いてやるがよい。たとへ完全に巣を作つて出産しても翌日位には親兎に恐怖心をいだかせないやうに、仔兎の生死を見てやらねばならない。この場合には巣をこはさないやう特に注意を要する。又分娩時には絶對に近づいてはならない。

夏だと蚊の侵入を防ぎ、人の直視を避ける爲、細目の蚊帳で箱の前面を覆ふべきだが、空氣の流通を防げないやうに注意する。

分娩時の注意

兎の姙娠期間は既述の如く時の狀態により一、二日の早い遲いはあるけれど、平均三十一日間である。

分娩は人手を要することなく、至極容易に行はれる。普通は巣の中で分娩する、中には前述の如く各所に一頭づゝ散らばして産むことがあるから、出産後には全部巣の中に納めてやる。その場合兎は鋭敏に他の臭と自分の仔の臭とをかぎ分けるものだから出來れば手袋をはめてこれに觸れる。

尙仔を喰ひ殺す兎は分娩後渴を覺える爲にかゝることをするといふ觀察から、これを防ぐ爲分娩時には特に水を與へる養兎家もあるが、遺傳的にかゝる惡癖あるものは捨てるがよい。

分娩後の管理と注意

兎は出産後二、三十分にして食慾を訴へるから大抵は平常の約二倍の飼料を與へる。主に豆類、麥類、玉蜀黍などを水に浸して柔かくしたものや、人蔘、蕪菁、芋類、蔬菜類の新鮮なるものを與へる。甚しく渴してゐるときは水を與へる。

分娩後、翌日位に巣をのぞき、仔兎の數をかぞへ死んだ兎は速かに取り除き、又生きてゐても著しく小さいものは捨てた方がよい。この場合勿論親兎は箱の外に出してそれを見せてはならない。

分娩の時、巣も作らず、又毛を拔かずに分娩し、此處彼處に産み散らばす兎は大抵仔を育て得ないものが多い。

授乳は夜これを行ふ。仔兎は大体二週間前後で眼を開き、毛は分娩後三日目頃から生へて一週間後には見違へるほどに毛が多くなる。

仔兎の淘汰と雌雄の鑑別

産む仔兎の數は大抵五、六頭だが、多産系のもの又は時として普通系のものでも十頭以上産むことは少くない。

母兎が育てる仔兎の數はその健康狀態や、乳の出る量などで一概にはいへないが、通常四、五頭を適當とする。多く産んだ場合には仔兎を均一に又完全に育てる爲、弱いものを捨てる。

如何なるものを捨てるべきかといふに、

一、全癒見込なき程度の傷をしてゐるもの、

二、著しく成長の遲れたもの、

捨て去ることが出來なければ仮母によつて育てる。

かくして母兎を保全し仔兎の均一なる發育を期すべきであるが、淘汰を怠るときは全体的に發育に支障を來し死ぬものが多い。

雌雄鑑別法

これは實に至難のことであるが、經驗上三、四十日で辛うじて見分けられる。

一、鼻が下に向いてゐるのは雄、上に向いてゐるのは雌。

一、雄の頭は雌に比して幾分か幅が廣い。

一、雄は雌よりも敏捷であり快濶である。

一、拇指で陰部附近を輕く押して見て陰部を圓筒形に高く伸ばした際、その端が圓ければ雄窪んでゐれば雌。

一、肛門と陰部と連絡してゐるのは雌、距つてゐれば雄。

これとても、初心者には見分けることは容易でない。

第六章　仔兎の生立ち

仔兎は三日目から毛を生じ、十二、三日にて開眼する。他の種類よりも毛の伸長早く、親から離す頃には相當の長さに伸びてゐる。

体重に至つては特に他の動物と異り、兎の乳は蛋白質及び無機物含有量が濃厚である爲、仔兎は約一週間位で生れた時の体重を倍加する。

母兎に乳なき時は牛乳或は山羊の乳を以て哺育し、相當効果を擧げ得るが、兎の乳を以てするときよりも何等かの方法で蛋白質を多くしなければならない。

時期によつて兎乳の成分には多少の差異あるも、分娩直後には極めて蛋白質の多い濃厚なものを分泌し、これが緩下劑の如き作用をなすので仔兎の便を排泄し易からしめる。從つて仮母に預ける場合は出來るだけ出産日の接近したものを用ひねばならない。

仮母の授乳

前述の如く一産に相當多數産れた場合には發育がよくて均一した兎を得る爲、多少の犧牲を拂はねばならないが、淘汰を惜むならば仮母を用ひねばならない。

この際注意すべきは温順で育仔に長け、しかもよい乳の多く出る健康な兎を選ばなければならないことである。

仔兎を仮母に預けるには、相當の注意を要する。兎は鋭い嗅覺で自分の仔と他の仔とをかぎ分けるから、この時には仮母を一時間位箱の外に出し、又は仮母の尿を他の仔になすりつけねばならぬことは前に述べた通りである。

仔兎を仮母に預けた場合は必ず兩三日中にこれを行はねばならない。

母兎の授乳

これはできるだけ四頭位に止めるやうにすれば相當立派な仔兎を望み得る。然し濫りに分娩時に箱を覗いて見たり、敷藁や巣に觸れたりすることは禁物で絶對安靜にしてやらねば恐怖心

を抱いて仔兎を喰ひ殺すことは前述の通りである。

尙巣は常に乾燥させ、親兎の糞尿の爲、濕る虞のあるときは、巣をこわさぬやう注意して掃除をする。この際柔かな藁を入れないと兎の眼をつく虞がある。

冬は保温の爲、敷藁や綿なぞを入れ、夏は涼しいやうにする。

開眼までの管理

分娩後二—三日間は所謂赤ん坊の狀態で眞裸であるが、四、五日目には柔かい、薄い産毛が生える。その時までたゞ寢て乳を呑むことだけが彼等の仕事であつて殆ど動くことすらもしない。だが十—十三日目頃には開眼する。この頃になると毛は伸び揃ひ体力も加はり巣の外に飛び出して來ることもあるやうになる。

この頃までは親兎の周到なる注意によつて育てられてゐるが、時にはまだ眼の開かぬものが母兎について巣の外に出たり、或は開眼前にヨチ〳〵巣から出て來て嚴寒の候には凍死するものもあるから、見廻つて手落ちのないやうにする。また時々巣を調べて見て死んだものがあれば取り出さねばならない。

離乳までの管理

眼を開いた仔兎は活潑に運動し食慾を生ずる。即ち十五—十八日頃となれば、仔兎は自ら親と共に餌を探し求め、二十日にもなれば体力も益々増加し、母兎に與へた餌を遠慮なく食ふから出來得る限り仔兎の分としてタンポポやハルノゲシ、アザミ、牧草、人蔘、甘藷の葉、龍舌菜、その他青草を一日に約十匁位づゝ與へ、外に豆腐粕を一日十五匁内外を四、五回に分ち與へる。青草は一夜位乾燥した後に與へると失敗がない。

この頃になると巣は必要でないから、箱は一週一度位は掃除し、乾燥と清潔とを保つ。又冬の保温、夏の換氣に意を用ひねばならない。

仔兎中に發育の遲れたものがある場合には、一日約三十分位、發育のよい仔兎だけを箱の外に出して運動させ、後に殘された發育不良のものに哺乳せしめるやうにすれば、數日にして各仔が殆ど均一に發發する。

離乳期

仔兎が相當大きく成長し体力も生じ、母乳を離れ一般の飼料で育成し得るやうになれば、母と仔とを分離せねばならない。

普通離乳は四十日内外を適當とする。

追交け法を行ふ場合は特に二十五日位で離乳せしめる。種兎として用ひる場合は六十日位哺乳せしめねばならない。

離乳法は單に母仔を分離すればよいのであるが、急激にこれを行ふとき、仔兎は生活の變化に驚き餌を攝らない場合もあるから仔兎を箱に殘し、母兎だけを他の箱に移す。寒さの爲、發育の遲れる場合もあるから冬又は梅雨期には多少永く母兎につけて置く方がよい。

離乳期即ち仔兎が母兎を離れて突然普通の飼料を與へられる時期こそ、養兎中最も細心の注意を拂ふべき時期である。この際、榮養に富んだ輕い飼料を給すればよいとか、或は給與の回數を多くして少量づゝ給すればよいとか等々、各管理者は思ひ〳〵の事をしてゐるが、かくては胃の負擔を過重させ、過食の弊害から死亡率が高くなる。夏の如きは特に注意を要する。又中には親兎に四十日、五十日、それ以上もつけて置けばよいなどと考へてゐるものもあるやうだが、それは成功してもまぐれ當りである。分娩後四十日以上も經過すれば親兎の中には乳を

與へながら第二發情期に入り自己の仔に交尾を促し、幾回となくこれに負ばれかゝるので、これが爲に仔兎が壓殺されたり、殺されなくても、肢を痛めるとか、その他不具となる危險がある。仔兎を母親に永くつけて置く必要は與へられた飼料の大半を親兎が食ひ、仔兎各自が競つてこれを食つても、それが少量であり、食事の前後相互競爭する爲に運動を促進する利益があるからである。母乳は二十五日までは多量に分泌するが、それ以後は少量となり四十日以上にもなれば榮養になるほどの乳は出ない。尙この場合、母兎に第二の發情なく仔兎に負ばれかゝるやうなことをせずとも、夏などは暑苦しく、多數群居してゐては、母仔共に衰弱する可能性が多いから十六日目位には母仔を分離する方がよい。

然らばどうしたらよいかといふに、要は從來の飼育法と異り各四季を通じて仔兎に胃の抵抗力を養はしむること、從つて離乳前から普通飼料を與へてこれを訓練するにある。

母兎の乳が一番多く出るのは、仔兎が生れて二十五日までゞあるから、その間は產箱を親のゐるところと仔兎のゐるところとの間の仕切りを二寸五分乃至三寸程のものとして置いて、仔兎がよち〳〵出て來ても、親兎の傍にゆけないやうにして置き、二十五日目から親兎だけを他の箱に移し、晝間兎が休んでゐる間だけでも親兎に充分の休養を與へ、飼料も夜間十分に乳の出るやうこれを親兎に與へ、仔兎も二十六日目を過ぎて、前記親仔の間の仕切りを取り去れば仔兎は親兎の喰ひ殘しを食つて見たり、吐き出したりしてゐるが、そのうちに少量づゝを食ひ馴れる。そして夜分になつて親兎をもとの箱に返へすと乳が張り切つてゐるのと、仔兎がたとひ親兎の飼料の殘りを嚙んでゐたとはいへ空腹になつてゐるので、相互とも十分に乳を飲ませたり飲んだりする。

かくして一週間乃至十日も繼續すれば仔兎は飼料を攝るよう訓練され、夜分は充分に親の乳を飲むことも出來るので、十五日位で乳を離れるときには內臟、消化器管は完全ならずとも種々の飼料に對する抵抗力を養ひ來つてゐる。從つて母兎が仔を六頭產まうが、十頭產まうが、これを四頭に淘汰しないでも、その全部を飼育することができる。

右は名古屋の奧村益輝氏の休驗上、確め得た事實であるといふことだが養兎家は實驗して見るがよい。

兎の發育狀態

三週間に約九十匁、五週間に百七十二匁、七週間に二百六十三匁、九週間に三百五十三匁、

十一週間に四百三十一匁、十三週間に五百二十匁、四ヶ月に五百九十匁となる。雌は雄よりも約一割減である。

仔兎の分離

仔兎は離乳した儘分娩室に止めて置くもよいし、特に育仔室に移して育てることもある。育仔室は分娩室よりも暖かくすることが肝要であつて、柔かな敷藁を充分に與へてやる。一—二週間は全群を一所に置き、發育に從つて各分離する。

仔兎の同棲數と雌雄の分離

離乳後は一箱に四頭を置くのを標準とするけれども、二ヶ月を經過すれば二—三頭とし、三ヶ月を經過すれば一頭乃至二頭位同棲せしめてよい。この場合は比較的發育の相似たるものを選ぶ。

離乳後四ヶ月ともなれば、早熟な兎は早くも發情し鬪爭するから、それまでには分離すべきである。

整毛期の注意

仔兎は生後一—二ヶ月にして產毛が拔けて新しい毛が生へる。最も注意すべきはこの時期であり、この注意を怠ると体質虛弱となり屢々死ぬことがある。特に追交け法や早交け法や、若い兎の交配等で產れた仔兎は一—二週間後に、或はこの期に死ぬのが多い。

この間は特に箱を淸潔、乾燥にして置き、梅雨期などに遭遇すると最も危險であるから再三敷藁を取りかへ、飼料も同一の物を毎日與へず、消化不良に陷ることを防がねばならない。又青草を多く與へると、下痢を起し易いから手加減して、成るべく乾燥した飼料をやゝ減じて與へる。

この期に病氣に罹つたものは將來種兎としての價値がなくなる。從つてこの期にさへ注意を怠らなければ先づ安心してよい。

離乳後の仔兎を育仔室に收容せずして、新鮮なる空氣を流通せしめ、よく日光のあたる場所で育てる方法が近頃行はれ始めた。從來の放飼式の長所と箱飼式の長所とを取つて、强健なる仔兎を經濟的に育て上げやうとするものである。

これには移動式の檻と永久的に建築されたものとの二様式があり、共に床は金網である。

前者はその檻を適當なる場所に移動せしめるもので仔兎の收容數は生後八—十週間位のものを十頭内外とし雌雄を分離し、常に發育の似たものを收容し、檻の大きさは間口約八尺、奥行約四尺、高さ約二—三尺とする。

育てる仔兎が多いときには、永久的の建築が便利だらう。いづれも床及び周圍は金網で張り且つ雨を防ぐ設備を施して一舍内に二十五乃至三十頭の仔兎を收容する。この場合悉く發育の相等しきものを選んでないから、形狀の相等しきものゝみを選び、漸次各舍の收容數を減じ、成育につれて各飼育箱に移す。

被毛の性質

毛には、

一、最も美しいもの（これは優良種の若兎に多く、柔かで全纖維が波立つて縺れ易い）

二、やゝ粗いもの（これは波立つてゐても、僅かでさう縺れ易くない）

三、最も粗いもの（これは殆ど波立たず、又殆ど縺れない）

の三種がある。

これは年齢により、第一、第二、第三と推移するのであるが、雌は雄よりも早く劣變する傾向がある。

仔兎の產毛は粗いけれども日を經るに從ひ、六週間内外で細い毛が生え初める。この細い毛の發育は非常に迅速であるが、最初の粗い毛よりは長くならない。

生後四—五ケ月で毛は拔けるが、この時期には多少の差異がある。

毛量と年齢及び性別

年齢と毛量とは或程度の關係を持つてゐるけれども、その關係の著しいのは約一ケ年までゝある。即ち春に生れたものは榮養の關係上、冬に生れたものよりも多い。就中四月に生れたものが一番好成績である。

成兎には季節によつて相違はあるけれども、老兎は毛量を減ずる。この減毛の始まる時期は一定してゐないが、雄は雌よりも減毛することが多い。

勿論榮養の關係も大であり、遺傳による影響もまた大であるが、以上述べ來つた原因の爲、

概括的にこれを示すことは困難であるけれども、我國の現狀よりして、大体年產七十匁見當、即ち兎の体重の一割である。だが研究と經驗とによつて優良種の普及と產毛量の增加とを見つゝあることは喜ぶべきである。

問題は兎の耳に房毛が有るか無いかのそれである。今までの經驗によれば房毛の有るものが比較的身体が小さくて、毛も細く柔かであり、房毛の無いものは反對であるが、最近にはこれは餘り問題にせぬやうになつた。

第七章　毛の管理

アンゴラ兎の管理に必要なる特殊の作業は梳毛である。即ち毛の縺れを防ぎ、又これを汚さないやうにすることである。これを怠れば毛の商品價値を著しく低下する。

採毛本位であれば三インチ內外で毛を剪るから極めて簡單で、一週間乃至十日目每に毛を梳く程度に止める。昨今少し早目に毛を剪り梳毛の作業を殆ど省く傾向になつて來たのは、一面兎毛の使用が廣範圍になつたことゝ、飼育者の經驗とが然らしめたものであらう。

梳毛用具

一、縺れを解くブラシ

毛ブラシを用ひ、針金製のものはこれを避ける(櫛は寧ろ用ひない)。これによつて毛に附着してゐる雜物や固まつた毛を解く。

二、光澤用ブラシ

柔かい毛ブラシで毛に光澤をつける爲に用ひる。

三、梳毛臺

毛が短ければ腰かけた儘で行へるが、毛が長いときは立つて行ふ方が容易である。從つて梳毛臺は自分の身長に適したものを用ひ、成るべく面積の小さいほど便利である。例へば石油箱を縱にした程度の廣さのもの。

梳毛作業

先づ兎を梳毛臺に載せ、飼料その他毛についてゐる雜物を拂ふ爲に上より下、下より上にと

ブラシをかける。

それから毛を中央で兩方に分け、頭部より臀部に至るまでの外側即ち兎の右側から始めて、分け梳いた毛の根から撫で下ろし、更にその眞下から分けて梳き下げる。この操作を繰返へして体側全部に及ぼす。そして梳毛後の部分被毛を吹けば皮膚が見える程度にする。

それから後肢、腿、尾、臀部、頭部、前軀、腹部、頰、耳及び毛房に至るまで兎全体に叮嚀にブラシかける。

採毛方法

梳毛が濟むと次に行ふものは採毛であるが、これには二つの方法がある。即ちフランスに行はれてゐる毛をむしり取るのと、我國やイギリスその他で行はれてゐる鋏を以て剪るのとの二種である。

前者は毛根が自然に熟して、むしり取つても血の滲じみ出ぬ時機を選んで行ふ。特長としては毛が全體に同じ細さであるから、これを紡ぐに適當であるのと、纖維を長くし得ること及び刺戟によつて毛の再生を早からしめることである。毛の發育が阻止された場合や、育仔後母兎の毛に粗いのが多くなつた場合には、靜かにこれを抜き取れば良質の毛の發生を促進する傾向がある。缺點としては全体の毛を一時にむしり取ることが出來ないのと慘酷なること、冬などは兎を痛めること等である。

鋏を以て毛を剪る方法に關して、先づ一般的に注意しなければならないことは、産業的に利用されるアンゴラの毛の長さは三インチ内外までゝあるから、この長さに達するまでは毛の發育も相當に迅速であるのみならず、縺れることもまた稀であり、從つて梳毛に多くの勞力を費す必要がないことである。だが、この場合毛が汚れたりなどしてゐては、直に商品價値を損するから、管理上注意を怠つてはならぬことはいふまでもない。

剪毛は特別の場合を除けば、すべて四肢に至るまでもこれを行ふのであつて、鋏を以て全体を短く刈り取る。但し繁殖用の雌兎は胸腹部だけはこれを殘して巣作りに利用させるやう注意する。

毛を剪つた後は新聞紙などで、しばらく表戸を被ふてやるがよい。

毛剪臺は梳毛臺と同様、廣過ぎると兎が動いて作業に不便だから狹い方がよい。

毛剪鋏は別に定まつたものを用ひる必要なく、様々な形をしたものを用ひる。床屋用の鋏もよければ、木綿鋏もよく、お互の馴れたものを用ひればよい。要は兎の皮膚を傷つけないで使用に便利であればよいが、柄は曲つたものを用ひれば便利である。

採毛時期

これは毛の使用目的に應じて、或は長く延ばして刈るか、又短いうちに剪ればよい。收益の點から見れば、自ら異ならざるを得ないが、先づ二インチ―二インチ半内外のところを見計らつて剪るべきで、二ケ月から二ケ月半見當を標準とする。だが普通織糸用にはこれよりも短くてよい、又製帽用としては半インチ―一インチ内外でよい。

採毛準備

毛剪臺に兎を載せ脊中の中央を先づ左右に分ける。この際、附着せる雜物を去り、縺れはこれをほぐし、ほぐし得ないものは切り去る。

採毛

最初は梳き分けられた脊中の中央、臀部から頸部に向つて幅一インチ位に剪り、その部分に沿つて後軀より前軀に進む。鋏は常に兎の身体と平行し手で毛を引張つてはならない。

常に片手を以て剪りつゝある部面の反對方向に皮膚を緊張させること、恰も人が髯を剃るときのやうに皮膚を緊張させる。

臀部及び尾は多少經驗がなくてはできないが、左手を後肢の間より入れて尾をつかみ、さらに兎の頭を左脇に抱へ込むやうにすれば、臀部、腿の毛を剪ることは容易である。但し臀部の下は注意しないと睾丸を切る場合がある。

前軀は頭を壓へ、胸は横に剪る。

腹は兎を臺の上又は膝の上に仰臥させ、体側を剪つたとき殘れる毛を剪り取るが、この際乳房を傷つけぬやう注意する。

四肢及び胸の縺れは仰臥させれば解し易い。

頸は兎の耳を捉らへて頭を前方に引き、頸の皮膚を延ばしてから剪るやうにする。

甚しく縺れ又は固まつた毛は管理の行屆かない爲であるが、これを剪るときには鋭利なる鋏で出來るだけ皮膚に近接して剪る。この場合兎の皮膚を傷けることが多いから注意を要する。

毛を縺れさせ又は固まらせると毛を剪る時間の不經濟なることは勿論、商品價値を損するから大いに注意すべきである。

毛の選擇と保存（附錄問答集參照）

剪つた毛は縺れないもの、縺れたもの、又その長さによつてこれを大別する。即ち一定の等級によつてこれを區別する。

毛を保存する容器は濕氣を防ぐものを用ひ、永きに亘るときは、ナフタリン又は樟腦を入れて虫害を豫防する。

梳毛と採毛

イギリスでは最近梳毛する勞力と、梳毛しない爲に生ずる損害等を比較し、寧ろ前者が有利であるので、梳毛はできるだけ簡單に行ひ固り毛の生ずることだけを防ぐ傾向を見つゝある。

第八章　去勢法

去勢即ち雄兎の睾丸を拔取ることは今日の畜産上、是非とも行はねばならないもので、牛、馬、豚、羊、鷄等には既にこれが實行されつゝある。

兎に關しては從來それを去勢することは少なかつたが、その効果の著しいことを知るに及んで漸次行はれるやうになつた。

技術は比較的簡單で、これの爲に兎を殺す心配はない。去勢すると兎は性質極めて温順となり、惡癖を矯正することが出來、体質强健となり疾病に罹ることが少くなり、肉を柔かく美味にし、雌雄同居せしめることも出來、体重の如きも普通の兎より約一割方重くなる。

去勢を行ふ雄兎は種兎以外のものを以てし、生後二ケ月乃至三ケ月に達した發情期前のものが最も適してゐる。

生後二ケ月に達しないものは睾丸が小さいので、手術が困難であり、三ケ月以上に發育すると、睾丸を包む膜が固くなり、睾丸に連なる血管、輸精管も太くなつてゐるから、出血を多く

疲勞の度を增す。

去勢は天氣淸朗な暖い日に行ふ。寒い風の當るところや、暑い陽の直射するところで行つてはならない。

去勢は是非二人で行ふこと。兎を捕へて板のやうな臺の上に載せ、助手をして兎の背中を下にして動かぬやうに持たしめ、その兩股を開かしめる。手術者は陰部を石鹼又はアルコールで消毒し、片手で一方の睪丸をつかみ、十分にこれを腹の中に押し込んだ後、鋭利なる小刀で睪丸に連なる筋を持つて縱にその皮を切り、睪丸を引出し、接續してゐる輸精管を切り取る。睪丸は鋏を以て切り取る。手術を終れば直に切口にワゼリンや豚脂の類を塗りつけ、或はこれをつて置くと數日にして癒着する。

手術後は餌を與へずに暖かいところに置き、箱を暗くして落着かしめる。そして一兩日後、再びもとの飼育箱に移す。

去勢には尙別種の方法がある。兎大の分厚な板、又は机を消毒して、その上に兎を載せ、兎の前肢を左右に開かしめ、その先端から約二インチほど離れたところに三インチ內外の釘を打ちこむ。その釘に前肢の第二關節を紐で結びつけて、動かぬやうにし、後肢も同樣にこの方法を繰返へし、眼を白い布か何かで覆ひ、頭だけを動かさぬやう助手に持たせて置けば、手術者は安全に手術を行ふことができる。

ゴムバンド利用の去勢法が最近考案された。それは兎が生後五ケ月も經過すると睪丸が外部に垂れるから、この時に商店などで買物すると包み紙の上に卷付ける細いゴムバンドを利用する。その方法は、一人が睪丸を摑み、他の一人が其の睪丸の根元に用意したゴムバンドを睪丸が紫色になるまで（約七卷以上）卷付ける。かうして置くと三日も經てば紫黑色が固く乾燥して一週間もすると睪丸が落ち、傷つけずに去勢が出來るのである。

第四編　飼　料

第一章　飼料に關する一般的知識

飼料の重要性

如何なる家畜でも、これを飼養するに際して最も重要なるものは飼料であることはいふまでもない。特に兎は短期間に飼養するものだから、經濟的方面からも、細心なる注意を拂はねばならない。卽ちその飼料は土地にて容易に得らるべきもので、産額多く、しかも安價で榮養率の大なるものを選ぶ。如何に効果多くとも産額少く、從つて高價なるものでは不經濟である。

兎の生命を維持し又その身体の細胞の分裂及び構成によつて、これが成長を期する爲、或は又新陳代謝の作用上、缺乏したる体内の成分を補給する爲、如何なる榮養分の攝取を必要とするか、その榮養分は如何なる飼料の配合によつて供給すればよいかを考慮した上、さらに最も經濟的なる材料を選ばねばならない。

兎の要求する榮養分は蛋白質、炭水化物、脂肪、水、無機物及びヴイタミンであり、その飼料は廣く植物、動物、鑛物に亘つて求められるだらうけれども、その中最も重要なるものは植物である。

蛋白質――兎の筋肉、靱帶、腱、皮膚、毛、爪、乳の如きは、皆蛋白質より成るものだから多分にこれを與へなければならないが、供給過多に失すると、腎臟を過勞させるのみで却つて害があるので、細心の注意を拂はねばならない。繁殖或は授乳中の成兎及び發育中の仔兎にはこれを最も必要とするが、成兎の生命を維持するだけならば少量でよい。

炭水化物――これは植物性飼料の大部分を占めるもので、体溫、エネルギーの淵源であるが剩餘があれば脂肪に變形して体内に貯藏される。蛋白質は炭水化物の不足する場合、エネルギーの淵源となるけれども、炭水化物は全く蛋白質の代用をなすとはいへない。だが飼料中最も安價なる爲、炭水化物を多く與へて蛋白質は最低限度に與ふるのが經濟的である。

脂肪――この構成機能は炭水化物と等しい。効果に於ては約二倍である。

水――これは兎の身体の六五%を構成し、消化、吸收、循環、排泄等の作用を助成、調節し發散作用によつて体溫を調節する。だから水分の缺乏は他の何物よりも兎の成育に支障を來す

だが水分は一般の飼料中に含まれて居り、綠草、根菜類、果實、豆腐粕等には七〇—九〇%、穀類その他の粕類にも九—一四%を含んでゐるから、特別に飲料水を給せずともよいが、乾いた飼料を多く給した場合、特に冬季に綠草の得られない場合には水を給與すべく、でなければ兎は糞詰りとなり易い。

無機物——直接にエネルギーの淵源とはならないが、骨格を形成し、組織、器管、血液、腺等の各部に分布され、生活機能を旺盛ならしめ、幼兎の發育を促し、姙兎の乳量を增加するに必要である。

約言すれば一般に使用さるゝ飼料の性質上、蛋白質と炭水化物と脂肪の配合よろしきを得れば、他の必要なる諸成分は、これと共に自ら得られる。

飼料の種類と性質

一、粗飼料

草類は兎の自然飼料として最も多く用ひられるものであつて大別して綠草及び乾草とする。

綠草——山野に自然叢生する野草より牧草に至るまで皆これであつて種類極めて多く、毒草でない限り飼料としては最も簡單で適當なるものである。時期又はその種類によつて榮養分に多少の差異があり、兎の好くものもあれば嫌ふものもあるけれど、特によいものを擧ぐれば、

野草類では、タンポポ、チチグサ、ナヅナ、ハコベ、クズ、アザミ、ヨモギ、スギナ、オホバコ、ヒエグサ、野生エンドウ、レンゲソウ、ナツラクソウ、カルカヤ等。

牧草類では、クローバー、アルファファ、サードウ井ツケン、ウマゴヤシ等。

その他多くあるが、餘り知られぬものは省略する。

但し注意すべきは綠草の給與に當り分量多きに過ぐるときは、兎が下痢を起して死ぬことである。特に冬より春となり綠草の手に入り易きときは急激にこれを多く與へるのは考へものである。

濕つた場所に生じたものは傳染病の原因となり易く、露又は霜のかゝつたものは避くべきである。

綠草は堆積して置くと惡變し易き故、吊して置くべきである。

乾草——これは野草、綠草を刈取つて乾燥したもので、飼料としては缺くべからざるものである。乾草は綠草よりも蛋白質、灰分、含水炭素を含むこと多く、且つ一種の芳香を有し兎に

興へて食慾を増進する効がある。

春、夏、秋の材料の有り餘るときに乾燥して貯へ置くべきであるが、最も榮養分に富んだのは五月中旬に刈取つたもので、その榮養分は七五%、六月中旬のものは六五%、七月下旬のものは五七%と、漸次に低下するから成るべく開花中のものを選ぶ。

動物は本能上、危險なる食物は自らこれを避けるといはれてゐるが、これは自然の場合であつて、人間が飼育して飼料を與ふるときは何でも與へられたものを食うから、特に注意を要する。

猛毒性の草――キンポウゲ(一名馬の足形、或はコンペイト)キツネノボタン、トリカブト、クサノオウ、ドクウツギ、テウセンアサガホ、ヒガンバナ、シキミ、アセビ、ヤマブキゾウ等々。

輕毒性の草――センニンサウ、レイジンソウ、エゾボタンズル、テツセン、ノウルシ、タケニグサ、ムラサキケマン、ドクゼリ、シユロサウ、ハイクイサウ、クララ、ヂキタリス、シホガマギク、ハシリドコロ、キツネノカミソリ、スイセン、レンゲツヽジ、ヤブカラン、タンバホウヅキ、テンナンシヤウ、ハゲン、ウラシマサウ、スイバ、ヒメスイバ、タデ、ダイオウ、

ハツヤ、シソ、イチビ、ヒヨ等、等。

右の他、辛味、酸味あるもの、又惡臭あるもの。

野菜類――野菜類はヴイタミンAが豐富で血液を淨め、消化を助ける上に於て大効あるものであるが、水分が多いので成るべく少く與へる。京菜、キャベツ、チシヤ、ホウレンソウ、白菜、小松菜等これに屬し、重要なる野菜として普く人の食用に供されてゐるから餘剰あれば利用する。

根菜類――葉菜類に比して養分が多い。大根、蕪菁、人蔘、午蒡、甘藷、馬鈴薯等これに屬し、就中人蔘、甘藷、馬鈴薯は滋養分多く、甘藷の如きは安いものだから秋、冬の飼料として貴重なるものゝ一つである。又これ等の莖葉も好んでこれを食ふ。

大根は食用としての普通のものよりも、家畜用のビートと稱する外國種がよく、滋養分も多く、大きさも大きく、一反歩の收量二千貫に達するものさへもある。

西瓜、南瓜、白瓜、胡瓜、茄子等もよいから、裏成りを棄てずに貯へて、冬季飼料の缺乏する際に利用する。西瓜は皮がよく、家畜用の大南瓜は偉大に成長する。

木葉類――樫、櫟、楢の葉は兎の至つて好くものである。殊に春これ等の新芽を取つて與へ

ると、他の何物よりも喜んで食ふ。木の葉は相當多く與へても害にはならない。樫は常綠木だから冬飼料に缺くときに用ひる。枇杷、柿、桃、梨の葉等も好んでこれを食ふ。

その他の綠飼料、果物の類、例へばバナナ、ナシ、カキの皮又は實、或は又トマト等すべて利用すべきだが、腐敗した部分は切り取つて與へる。

藁稈類――これは主として穀菽類の莖葉部であつて、纖維粗くして剛く、養分を含むこと乏しく消化不良である。だが敷藁として用ひる稻藁はその性質最良であつて、兎は好んで食ふ。だからこれを與へると糞尿を吸收し、箱を清潔ならしむる利益もある。故に一は保溫の爲、二は飼料として特に稻藁を給する。だが新鮮なるものを用ふべきである。

嚴寒の候、離乳直後の仔兎群の保溫兼飼料として、稻藁を給するには箱の七、八寸の高さに竹又は棒を數本渡し、この上部に新鮮な稻藁を並べて置くとき仔兎は好んでこれを食ふ。

二、穀　餌

飼料中穀餌は榮養率最も高く、從つて最重要視される飼料である。だが穀餌は綠餌及び製造粕等よりも高價で、これを兎に與へるのは不經濟だから出來得る限り自家の生產物及びその殘りを以てすべきである。

穀類――大麥、小麥、ライ麥、裸麥、燕麥、玉蜀黍、高粱、粟、稗、鳩麥、甘藷、蕎麥等、等。

豆類――大豆、小豆、豌豆、蠶豆、隱元豆、頭豆、刀豆、南京豆等、等。

製造粕その他――豆腐粕、大豆粕、麩、糠、餡粕、飴粕、澱粉粕、麥酒粕、パン屑、脫脂乳茶粕等。

三、特殊飼料

水――兎に水を與へると死ぬといふが、それは大なる誤謬である。水はすべての動物の必需品であつて、身体の成分の大半は水であるので、水が如何に兎にも必要であるかは言ふまでもなく、問題は分量如何にある。特に出產の時、又は夏季水を與へて特効がある。

食塩――綠餌の給與に伴ふ消化の障害を避ける爲に食塩を與へ、又貧血症の榮養劑、健胃劑利尿劑、寄生虫の豫防劑としてこれを用ひる。特に授乳中の動物には乳の成分として、体外に取り去られた塩素を食塩の形で補給する必要がある。一週に一度位與へれば足る。

鐵分――これは强壯劑として用ひるのであつて赤錆の生じた古釘類を水中に入れて給與すると自然兎に鐵分を給することゝなる。

その他――魚粉、鱈肝油、牛乳等も經濟の許す限り用ひて効あることは言ふまでもない。

飼料の配合調理法

飼料は大体既述の種類につき各目的に應じて調理すべきであるが、如何なる場合にも生草、乾草、根菜類を主とし、他の濃厚飼料（穀餌）を從として少量をこれに混ずる。春夏及び初秋は生草、木葉を主とし、他に製造殘滓類、穀類、豆類を用ひ（麩四、米糠四、豆類二の割合で混合）秋末、冬及び早春には乾草、木葉を主として、これに豆腐粕、その他製造殘滓類、根菜類、穀類、果實等を與へる。生草はできるだけ一日位干したものを與へるがよい。

要するに何れの時期にも最も安價で且つ豐富に手に入るべきものを主とする。

穀餌は水に浸した後、水氣を去つたものを用ひるか或は粉碎せるものを與ふるかすれば結果は良好である。穀餌は水に浸すことによつて消化力を增す。モヤシができればこの上もない。

モヤシは麥を四、五日間水に浸し、水が十分に浸み込んだとき、これを籠にあげて水氣を去り、後これを一寸ばかりの厚さに板の間にひろげ、土間ならば莚を敷いて同樣にひろげ、上より莚で覆ひ、一日數回良くかきまぜる。そして稚根が發生して六、七分位に伸び、新芽が一分

位になるとき、桶又は樽に移し水で冷し、再び籠に入れて水氣を去り、厚さ一寸ばかりにひろげて、日光にさらすと新芽が綠色に變ずるから、これを給するのである。

給餌の回數

實際からいへば一日に一回、二回も大した差異はない。勿論一日一回主義の場合は常に乾草を草架につるして、何時でも食ひ得るやうにし、一回だけ穀類を與へる。一番理想的なのは一日二回と晝夜少量の野菜類を與ふるがよい。手數のかゝる點を省けば、朝夕二回であらう。勿論給與の時間は嚴重にこれを定め不規則に陷つてはならない。兎は夜中多く餌を食ふので夜は分量を多くする。

最も多く用ひられてゐるのは朝夕二回主義である。離乳後は一日に四回位、姙娠兎にも、分娩後の兎にも三回乃至四回位は與へ、漸次平時に復する。

給餌時間は三回ならば午前八時、正午、午後六時、二回ならば午前八時、午後六時が適當だらう。

そして餌は一種のものよりも二、三種混合したものを與ふるやうにしたい。

分量――一日一回の分量は、成兎には穀類ならば十五匁位、草類は四十匁位、姙娠兎にはこの倍量、仔持兎には十五日まで二、三割増に與へる。

斷乳後一ヶ月までの幼兎には出來るだけ榮養分の多い柔かいものを用ひ、分量は一群の重量五百匁に對し、成兎六百匁に相當するものを與へる。

斷乳後二ヶ月までのものには一頭成兎の約半分弱、尤も兎の大小、發育の良否に應じて適當に給與すべきはいふまでもない。

要するに專業としてならば格別、副業としてアンゴラ兎を養ふのならば、餘りむつかしく考へないで、適當にこれを養つてをれば經驗上よくそのコツを知り得る。

給餌上の注意事項

一、兎は習慣性の動物だから、給餌時間を定めた以上規則正しくこれを勵行する。

一、飼料の變化は徐々に行ふ。如何によい飼料でも、急激に變ずると下痢その他の消化障害を起す。

一、腐敗し、惡變した飼料、凍結した綠餌、甚しく濡れた綠草等をやらないこと。

一、飼料中の水分の調節を計ること、乾草を主とするときには練餌とし、綠草を主とするときは乾燥飼料を用ひる。また水分多き綠草、根菜類は一夜屋内にて乾燥させる。

一、夏には發熱量の多い飼料、卽ち炭水化物、脂肪に富むものを避ける。

一、飼料を單用せぬこと、綠草類も一種類を與へないで、幾種類も混用する。

一、兎一日の飼料の量は大体の標準であるから、各兎の發育狀態に應じて多少加減すること。

一、常に兎舍内を巡視して喫食狀態をしらべ、給餌後二時間も經て殘つてゐる飼料はこれを取り去り、食慾不振の場合は異狀なきやとしらべ、藥を與へ又は飼料を加減すること。

一、飼料を與へるには、すべて器を用ひ、木製のものはこれを避ける。陶器の素燒の重いものがよい。

乾草及び埋草法

乾草を大仕掛けに作るには刈取つた牧草をそのまゝ地面にひろげ、時々かき廻はし、十分に日光にさらした後、小屋に貯藏する。

次に埋草は一時に多量の草を狹いところに貯へることができ、冬でも新鮮なる飼料を與へて

兎の食慾を増進することができる利益がある。

この埋草法は大規模となれば相當の設備を要するも、副業の立場からいへば、乾燥した土地に穴を堀り、これに草を入れ蓋をして土又は石で壓へればよいのであるが、雨水が入つては駄目になるから屋外ならば屋根を設ける。

穴は大体五尺位でよいが底は一寸厚さのセメントでかため、二―三日乾燥した草を入れる。穴の兩側も塗つて置けば、この上なきことだが高燥な土地ならばそれには及ぶまい。

穴の蓋は板がよく、その上に十貫位の重石を置き、全面に重さのきくやうにする。十二月頃からこれを利用し、口開けの際上部の變色したものは肥料として用ひる。口開け後は重石を除き板だけを載せて置けばよい。

第二章　姙兎の飼料

交尾後約二週間までは從來通りの飼料を與へ、以後は次第に榮養分を増加する。即ち飼料の分量を變じないで、濃厚飼料中の蛋白質を増す。特別の注意として冬季根菜類のものならばその量を多くしないが、夏ならば青草及び綠飼料を欲しがるだけ多くやる。炭水化物及び脂肪に富んだものを避け、蛋白質をやゝ多からしめるのは兎の肥過ぎを避ける爲である。姙兎の飼料はそのまゝ仔兎の飼料となるものだから、榮養の多いものでなくてはならない。

飼料の榮養分を多くせず量だけを多くすると消化不良を起す危險がある。でなくとも分娩直前二、三日頃には、食慾の減退を見ることがあるから、この際には飼料をやゝ減ずる。だがこれは一時的の變調だから心配するに及ばない。

又姙兎は渴を訴へ易いから、清水或は青草を毎日少量づゝ與へることを忘れてはならない。マツク・アイザツク氏の研究によれば、分娩前七―十日、授乳開始後十九日頃には母兎の体内に著しくカルシュウムが不足するといふから、市販の家畜カルシュウム劑を給與するとよい。

第三章　石灰藻の製法

石灰藻の特効は藻の成分がよくなり、尙カルシュウムがこれに加はることによつて骨の軟弱なもの、即ち骨軟症の兎には大なる効果があり、又冬の青草のないときの代用となる。

この製法には二つあつて、一は煮沸法、他は簡易石灰藁と名づけられるものである。前者は規定の液中で煮沸し、後者は石灰乳中につけるだけのものである。言ひかへれば、石灰によつて藁の榮養分を増加せしめ、消化を妨げる物質をこれによつて取り除くのである。

煮沸石灰藁――藁の量の一割に當る石灰を一%の石灰乳となし、三時間ほど煮沸する。即ち藁の重量の一割の石灰を桶かバケツなどに入れ、少量の水を注いで、しばらく置くとドロ〳〵となるから、その後一%の溶液になるやうに水を増して入れる。これに所要重量の藁を入れ、本液と共に三時間ほど煮る。一例を示すと、

一、生石灰又は新鮮な石灰百匁
二、常水を約二斗
三、切藁一貫匁を切込む
四、約三時間煮る

右の結果で三倍近くの榮養分を増す。

簡易石灰藁は前方法と同じ規定の石灰乳中に藁を入れて、二日間置くだけのことである。この際、水を用ひるよりも微溫湯を用ひた方がよい。

第五編　養兎の病氣と治療法

アンゴラ兎は弱いとは限らないが、野生の兎に比すれば自然に弱く從つて病氣に罹り易い。その病氣は一方遺傳にもとづくが、他方氣候、清潔、飼料の順應を缺くときに起る。だからこれを壯健に育てやうとするには、先づ第一に種兎を撰ぶと共に飼育管理に細心の注意を拂はねばならない。

飼育管理に細心の注意を拂ふといふのは、病氣に罹らぬやう、前以て親切にこれを取扱ひ、病氣を豫防する意味である。それには先づ消毒劑を準備し置き、食器はいふまでもなく、箱を消毒して置かねばならない。

消毒劑は石灰液か硫黄華かを用ひる。前者ならば石灰三〇、石鹼一〇、水六〇の割合で石灰と石鹼とを水にて溶かし、これを噴霧器で箱内に撒布し日光で乾かす。後者は箱を倒にして内に硫黄華をたき、それから生ずる亞硫酸ガスで病菌を殺す。

食器や水入及びその他の道具も石炭酸水四—五%で、よく洗ひ消毒する。

病死した兎は土中に埋めるか燒くかする。更に進んでこれを解剖し、その死因を知り、これより得たる知識を應用すれば何よりの事である。

病兎は動作不活潑で、毛の光澤を失ひ、毛並みが亂れ、食慾不振、眼光鈍きときは常態でないことを示す。尙兎の耳は暖かいものだが、これを握つて見て冷たいときは病氣に罹つてゐるのである。

時には一時元氣を失つたゞけのこともあるから、その時には少量の硫黄華を服用させると恢復することもある。だから氣候の激變、連日の降雨の爲、兎が活力を失ひはしないかと思はれる際には、飼料中に極く僅な硫黄華を混じて、活力の低下を防ぐのも一策である。

病兎が食慾を失はないうちならば、瀉利塩、亞麻仁油などを飼料中に混じて與へ得るものもあるが、時には液体として與へねばならないものもある。その時には尖端の金屬製、骨製、エボナイト製の器具を注入器となし、兎を膝の上に載せて身体をおさへ、口の角、齒隙のある部分にこれをさし込み、徐々に藥を服ます急激に行ふと兎を窒息せしむることがあるから注意を要する。

第一章　消化器病

急性口内炎（一名涎病）

症狀——從來涎病といはれ、盛んに涎をたらし、胸や前肢までもこれが爲に濡れる。うつちやつて置けば死ぬ。

原因——急性の消化不良であつて、飼料の不適當、時候の變化、兎室の不潔、刺戟性飼料の給與などの爲に起る。

治療法——隔離して箸かピンセットかで綿を挾み、それに硼酸水又は明礬水を含ませて、一日に一—二回口中を洗ひ、涎を拭き取り、沃度チンキ三分、グリセリン五分の沃度グリセリン液を口内に塗る。

飼料は綠草を避ける。又夏は暑い爲に一種の涎病を起すことあるが、これは涼しい日蔭に柔かい藁を敷き、靜に休息せしめ、口中に仁丹五—六粒を入れ清水を與へる。

最も有効且つ迅速なる治療法は、一日絶食させ綠餌は全快するまで全然與へず、穀餌か大豆粕のみを與へ、明礬を仔兎三ケ月内外のものには大豆ほど、親兎ならばその倍量を朝夕一回づゝ與へることである。

鼓腹病

症狀——生後二ケ月から四ケ月頃までの仔兎に多く、腹が非常に張り、食慾減退を見るに至る。

原因——綠草の食過ぎ或は飼料の不適當、運動不足等によること多く、急性消化不良といはれてゐる。

誘因——管理が不完全で活力低下してゐる際には、これが誘因となつて、兎はやゝもすればこの種の病氣に罹る。即ち通風不良、濕つた飼育箱がこの誘因である。

療法——從つて仔兎は極力運動を行はしめ、腹部をマツサージし、ヒマシ油の如き下劑を與へて胃の中のものを下し、綠餌を與へず、乾燥牧草の少量を與へ全快するまで安息せしめる。瀉利塩を服用せしめるもよい。

下痢

原因——下痢はいろ〳〵の原因から起るが、綠餌の食過ぎ、變質した穀類の給與、氣候の變化から起ることが多く、又一般的に体力の衰へたときに起る。殊に霖雨など濕々した天候が續くときに兎は下痢を起し易い。

療法——極く輕い場合は兎を乾燥した箱に移し、敷藁を厚くし、綠餌を與へず、番茶の出がらの水を切つたものを與へると大抵全快するが、少し長引くときは、重炭酸蒼鉛を練餌に混じて與へる。その量は茶匙一ぱいを成兎なれば六頭、幼兎なれば十二—三頭分に分つて與へるのが標準である。又他の療法としては一日病兎を絶食させ、綠餌は全快するまで全然與へず、藥をのますよりも豆腐粕を固く絞り、その中に少量の塩並にカタクリ粉を交ぜて與へるのである

便秘

原因——飼料の與へ過ぎ、胃中に固まつたものがあるとき、飼料が急激に變化するときなどに起る。

症狀――腹が異常に膨れ、快濶を缺き、食慾もなく、沈み勝ちとなり、便は至つて小さく成兎も往々仔兎のやうな小さな糞をなす。

療法――穀餌をしばらく與へず、青草を與へ、重いものはヒマシ油を與へるか、石鹼水で灌腸する。更に重いものはラキサトールをのます。

別の療法として四十度内外の微溫湯に少量の食塩を混じ、その中に脫脂綿又は新しい小切の布を浸し、これを半しぼりにして三、四分間二回ほど腹部から肛門に至るまで濕し、輕くマッサージすれば大粒の糞が一度に出て來る。灌腸は素人には危險である。

最近水を與へることによつて、この種の病氣は大變に少くなつて來たやうである。

第二章　呼吸器病

惡性鼻カタル

原因――氣候の急變又は毛を剪つた後、感冒に侵されたときに起るが、これ以外にバクテリユム・レプチセプチクム、バチルス・ブロチリセプチクスを病源にするもの多きことが近來の研究によつて明白となり、その危險なる理由も證明されたのである。

統計によると、この病氣の爲に死ぬもの甚だ多く、その率コクシジユウムの爲に死ぬものに劣らない。從つてその療法は鋭意研究されつゝあるが、尙根治の良法なきは遺憾である。

この病原菌は鼻腔中に繁殖するもので、兎の鼻の構造上容易に絶滅し得ず、身体が健康である間は活動しないが、活力が多少低下すると直に猖獗を極める。これを保菌してゐる兎は實に多い。

症狀――鼻粘膜が充血し、くさみ、咳嗽を發し、鼻孔は腫れあがり、膿樣な分泌物の爲に終に塞がり、呼吸困難の爲前肢で絶えず鼻を撫で廻はす。くさみをすれば一時呼吸が樂になるので頻りにくさみする。

療法――乾燥して通風よく、溫度の激變なき場所に移し、鱈肝油劑等を與へ、身体を强健にし病菌に對する抵抗力を强くするのが唯一の根本的療法であらう。

本病の特効療法で、今日まで知れたものは殺菌劑を以て鼻腔内を消毒するだけのことで、硼酸水で鼻翼及び鼻腔内を拭つて汚物を去り、黃色ワゼリン六分、樟腦三分、アスピリン一分を

混じた軟膏を毎日二—三回鼻翼に塗抹する方法や、ユーカリプタスチンキ、ユーカリプタス油沃度チンキ、リゾール、クレゾールなどを鼻腔内に塗布する方法もあるが、いづれも多少の効果ありといふに過ぎず、輕快となるものは何れにしても輕快となるが、然らざるものはどうしても快癒しない。

本病が根治し難いのは鼻腔の深いところにある病菌を絶滅し難い爲であるから、吸入療法又はユーカリプタス油を箱の中に撒布し、これを呼吸させる治療が最もよい。

感冒

原因——鼻カタルと混同され易いが決して同一ではない。隙間風、濕つた箱、輸送中に寒風に吹きさらされたことなどによる。

症狀——鼻から水のやうな粘液を出し、くさみをなし、輕い熱を發し食慾不振となる。

療法——新鮮なる空氣と日光浴のでき得る場所に移す。所謂空氣療法が最もよい。熱を下げる爲にはトリカブトチンキ十滴を清水一ガロンに加へたものを飲料水とする。鼻を洗ふには重曹液を以てするか、過マンガン酸加里三%を用ひる。温い牛乳を一日二回位與へてもよい。

肺炎

原因——雨や寒風にさらされた時、或は箱が不潔で濕つた時などに起る。糞尿で箱が汚れ、アンモニヤを以て充ちた空氣が本病の原因となることが多い。

症狀——呼吸困難、頭を後に曲げて呼吸せんとする狀態を示す。

療法——温い練餌などを與へ感冒と同じ處置をする。

結核

症狀——養兎の肺臓が結核菌に對して抵抗力少きことは、研究濟みであるが、多くは痩せ衰へて遂に死ぬ。症狀を知ることは困難である。

原因——傳染經路としては牛乳を飼料としたり、或は水邊にある草などを飼料とする場合に起る。

療法——現今ではワクチン療法を最も有効なるものとしてゐる。

第三章　神經系統の疾患

痙攣

症狀――頭を曲げて苦悶し、呼吸困難となり、眼は硝子のやうになり、横に倒れ四肢を以て蹴るやうなまねをして遂に死ぬ。

原因――飼料の不適當より來る急性不消化、中毒、內部寄生虫などであり、成兎よりも幼兎に多い。

療法――急激に來た重症なものに對しては、手の施しやうもない、先づブランデーを等量の水に薄めて三時間毎に少量を與へ、常態となれば綠草、牧草などを主として與へる。又粉末樟腦四グラムを微溫湯に溶かして飲ましめる。重曹、臭素加里を飲ましてもよい。

痲痺

症狀――一名腰拔け病とも稱し、その名の如く腰拔け同樣になる。腦溢血から生ずることもあり、產後の痲痺もあり、箱の濕りから生ずることもある。脊髓が或種の病菌に襲はれた爲だといふ說もあり、又鼠によつて傳染するといふ學者もある。

療法――牛乳に沃度カリを加へたものを服用させ背部の毛を剃り脊髓に沃度チンキを塗る。尙石灰の不足から來ることもあるから石灰藥を與へるのは本病豫防の一方法である。

第四章　泌尿器、生殖器及び乳房の疾患

赤尿

症狀――尿が赤色又は變色する。これはさほど心配するほどのものではないが、不適當な飼料を食ひ過て腎臟を過度に刺戟する爲に起る場合が多い。

療法――刺戟性の飼料を廢し、敷藁を取換へ、濕つた靑草、根莖類を多量に給することを避け、硝酸チンキ四、五滴を飲料水に加へて服ます。

症狀――生殖器に炎症を起して腫れ痂を生じ、時には膿汁を出すものもある。初期には治癒し得られるも、うつちやつて置けば慢性になる。完全に治療の後でなければ本病に罹つたものは種兎に用ひられない。

療法――硼酸又はリゾール二%の微温液を脱脂綿又はガーゼに浸して患部を十分に洗ひ、痂を除き、水銀軟膏、沃度チンキなどを塗るのもよい。全治したやうに見えても二、三日續けて塗る。或はイマミコール液〇・五ccを二、三日隔きに合計四―六回筋肉に注射する。

乳房の腫れ

症狀――乳房が腫れて充血し授乳せず、食慾を減ずるに至る。

原因――仔兎に乳房を嚙まれ、乳腺が閉塞したか、又は仔兎の數が少いか、或は餘り早く離乳せしめた場合に起る。

療法――先づ飼料の蛋白質を減じ、患部に樟腦油劑を塗つて摩擦する。それでもいけなければ、リゾール五十倍液にて消毒、切開して膿を出し、再び消毒して亞鉛華軟膏を塗る。

第五章　妊兎の病氣

不妊症（脂肪過多症）

症狀――交尾を拒み、或は妊娠しない。

原因――いろ〳〵の原因があるけれど最も多いのは肥え過ぎである。

療法――飼料から炭水化物、澱粉を減じ、牛乳を飲ませてゐれば牛乳を去り、清水を與へ、數日間かゝる飼料を用ひた後に豌豆の如き豆類を二日間水に浸し發芽狀態になつたものを與へ發情を促す。

第六章　原生虫病

コクシジユウム

仔兎の罹る恐るべき病氣ではあるが、六ヶ月以上に發育したものには殆ど見ない。

症狀――腸を冒すものと、肝臟を冒すものと二種類あるが、從來は腸の疾病として取扱はれた。腸を冒されたものは甚だしく下痢して數日中に死ぬか、何等の症狀を見ないで急死する場合もある。肝臟を冒されたものは痙攣を起して死ぬが、甚だしいのになると悲鳴をあげることもある。

一般症狀としては食慾減じ、下痢を起し、往々にして血液を混じた排泄物があつて、毛並不揃となつて光澤を失ふ。時には下痢その他の症候を示さず、痙攣症、痲痺症の如く頭部を一方に曲げ、或は後肢の自由を失つて死んだものを試驗すると本病なることを發見する。だから仔兎の病死が續出すれば本病として解剖しその原因を確める。

この場合には兎舍全部のものに綠草を與へることを中止し、食塩を飼料中に混じ、毎日箱を掃除し飼料、飲料水の容器を消毒する。

療法――飲料水五升二合に藥用硫酸の茶匙一杯を加へたものを與へる。だが本病に特効ある藥劑は尙未だ發見されてゐないから、兎の体力を强健ならしめて抵抗力を增加せしめるより他に途はない。

第七章　耳及び眼の病氣

耳痂及び中耳炎

症狀――胛介骨の基部を冒かし、中耳の全面に蔓延する。氣候の暖かいときには特に甚しくうつちやつて置けば衰弱して死ぬ。

療法――石油を毎日一、二滴垂らすこと三回に及べば大体全癒す。一日一回でもよい。

曲り首

症狀――首が曲る病氣で、飼料の不適當、消化不良、非衛生的管理などが原因であるが、最近では內耳に寄生して膿腫を起す極めて微細なる病菌の作用であるといはれてゐる。この寄生虫は乾草、牧草、藁などに附着してゐるもので、急激には發作せず次第に首が曲つて甚だしきに至つては顏を脊中にまで向けるものすらもある。

療法――中耳炎と同樣オリーブ油を筆に浸し、硼酸末をつけたもので內耳にまで塗り込む。

その他、垂れ耳、眼病等もあるが、眼病は硼酸水で洗ひ眼藥をさしてやれば癒る。

膿腫

症狀——アンゴラ兎には餘り見ぬものであるが、時折膿汁を出して、瘤のやうなものができることがある。

療法——患部の毛を剃り、沃度チンキを塗つた後、切開して膿を出し、内部に沃度一、水一〇の溶液を塗つて乾燥せしめ硫黄華をつめて置けばよい。

第八章　被毛の病氣

疥癬

症狀——箱が不潔である爲に起る。先づ鼻より始まり、唇、前額、肢に及び脱毛して皮膚に灰色の痂皮を生じて、痂粉を發散して傳染する。

療法——患部の毛を刈り、軟性石鹸を厚く塗り、二—三十分の後、微温湯を以て洗ひ落し、硫黄軟膏（硫黄一、豚脂或はワゼリン三）を十分に塗り込む。これを毎日二回づゝ五日ほど繼續し、再び石鹸液を塗り全癒するまで繰返す。輕症の場合は患部にブラシをかけ硫黄華をすりこむだけでも効果がある。

輪癬

症狀——一錢銅貨大までの圓形帶黄色の痂皮を生ずる。頭部、前肢、耳などに見ること多く若い兎に特に多い。

療法——沃度チンキ、或は硫黄軟膏を患部に塗る。

脱毛

原因——種々の原因がある。

療法——寄生虫に原因するときはその原因を去り、換毛期に際して容易に新しい毛の發生を見ないときには毛のやゝ強いブラシでその部分を摩擦した後、硫黄華を擦りこむ。硼酸軟膏を塗つてもよい。そして夏ならば玉蜀黍、魚粉の如き發熱量多き飼料を避け綠餌を多く與へる。

蚤、虱その他寄生虫のうち、蚤は箱を清潔にすれば容易に絶滅し得られ、虱はやゝ面倒であるが、五日毎に酢、又はメチルアルコールを塗れば驅除し得られる。

第九章　悪癖

食仔癖

食仔癖は母兎が安靜を失つた場合に起ることが多い。飲料水が不足だからだといふ説もあるが、分娩するときに飲料水を與へた場合にもあるので、犬、猫、鼠等におゞろかされ、或は見馴れないものに驚いて、その仔を食ふのではあるまいか。大抵はその時限りで常習になるのは少い。

食仔癖は概して初産の母兎に多く見られる現象である。初めて分娩したので恐怖の結果、神經過敏となり何事にも驚き易く、やゝもすればその仔を食ひ殺す。かゝる兎は人に馴れしめるやうに育てる。即ち仔兎時代から人間に馴れさすことが必要である。よく馴れた兎は捕へられても、おとなしくしてゐて逃げ廻らない。勿論遺傳的のものもあるが、一應さうした方法を取つても治らず習癖となつたものは繁殖用としない方がよい。

食毛癖

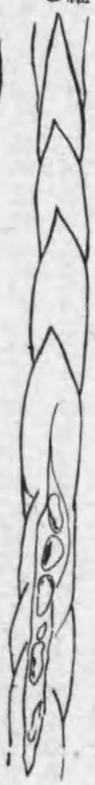
アンゴラ兎の如き長毛種の兎には屢々自分の毛を食ひ、時には甚だしく外觀を損じ、又食つた毛が胃腸内で固まつて胃腸の病氣を起す。これを矯正するには香が高く、苦味のあるものを毛に塗つて、これを食ふことを懲らしめる。胃腸内の毛は便秘の場合と同樣下劑で下す。

第六編　アンゴラ兎毛

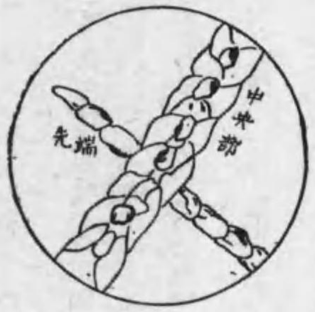
第一章　アンゴラ兎毛の構造及び特性

アンゴラ兎毛を顯微鏡にて檢するに、外側は鱗片狀のもの（スケールと呼ぶ）に包まれてゐる。鱗片狀の端はやゝ鋭くして纖維に殆ど附着し、メリノ羊毛の如く先端が外方に突出してゐず、白色半透明で內部の細胞部が珠數狀に連續してゐるのを見ることが出來る。

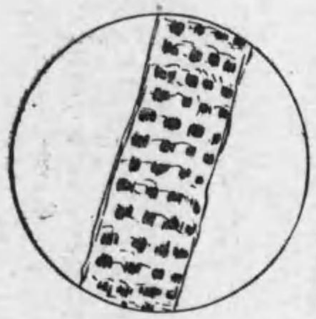
アンゴラ兎毛細纖維（九〇〇倍）



アンゴラ兎毛細纖維（九〇〇倍）



アンゴラ兎毛刺毛（九〇〇倍）



アンゴラ兎毛の纖維は大体スケール（鱗片）、中層細胞、毛髓細胞の三部より構成せられ、スケールは毛纖維の外圍をなし、角質の細胞が重なつて鱗片狀の外觀を呈して表面は滑かでない特にアンゴラ兎毛の纖維はスケールに乏しくして筍のやうに見え、纖維交互の搦み合ふ力は小さいが、之に反してメリノ羊毛のスケールの狀態は開いた松笠の如く纖維同志の搦み合ふ力が頗る大である。だからアンゴラ兎毛だけでは紡績が困難なのであ多少のメリノ羊毛を混合して結合力を助成せしめ、以て毛糸を製造するのである。

スケールの下部には纖維質の細胞の層、卽ち中層細胞があつて、之が毛の大部分を形造る。それは多少の角質性を帶びるものであつて、毛の强力や彈力は主に此の層によりて定まる。尙此の細胞の成長するに從つて纖維は縮まり、外觀上波狀を呈するに至る。

毛髓細胞は纖維の中央に在つて圓く、やゝ平たい細胞からなり殆んどすべての纖維が髓を有して居り、極く細い纖維になると髓の無きものもある。纖維が太くなる程髓も全纖維に涉り極く太い纖維になると數個の髓がある。此の髓の

形はアンゴラ兎毛獨特なものである。卽ち始めは圓筒狀に髓部があり、段々に成長して一定の期間を經て完全に成長した時、髓部が水分などを蒸發し、收縮を始め前圖に示す如くA圖よりB圖の樣に蒸發が進んでC圖になり、最後にD圖の如く一定の長さに規則正しく切目が出來る。

次にアンゴラ兎毛につき愛知縣尾張染織試驗場に於ける種々の試驗の結果を茲に列記する。

纖度試驗結果

試驗回數	一〇〇回	
單位	ミクロン（千分ノ一粍）	
最大直徑	二〇・〇〇〇ミクロン	
最小直徑	一〇・〇〇〇ミクロン	
平均直徑	一三・六五〇ミクロン	
（卽ち一〇〇番見當）		
刺毛		
最大直徑	六三・三三三ミクロン	
最小直徑	二〇・〇〇〇ミクロン	
平均直徑	四六・一五五ミクロン	
（卽ち三六番見當）		

波狀數試驗結果

試驗回數	三〇回
平均波狀數	七・一（一時間）

セレーション試驗結果

試驗回數	五〇回
平均セレーション	二一六五（一時間）

他種毛との比較

品種	直徑（ミクロン）	セレーション（時間）	波狀數（時間）
サキソニー、メリノ羊毛	一〇・九〇	三、〇〇〇	三〇—三五
サウスダウン羊毛	二九・〇〇	一、六〇〇	一二—一八
オーストラリア、メリノ羊毛	一六・五一	二、五〇〇	二二—三〇
アンゴラ兎毛	一三・六五	二、一六五	六— 八・五
リンコルン羊毛	四二・四六	一、三〇〇	三— 五

支那羊毛	二二・五〇	一、三〇〇	一一〇
インデイアン、ジョリア	三三・〇〇	一、一〇〇	五—一〇
支那駱駝毛	二一・〇〇	〇、二〇〇	五—一〇
ビキユーナ毛	一三・五〇	二、五〇〇	一— 二
			五—一〇

（アンゴラ兎毛以外のものは井島重保氏調査による）

品質等級比較概表（繊度、波狀數、セレーションの三條件による）

品種	品質等級（サキソニー、メリノ羊毛を基準とし最優等品となす）
サキソニー、メリノ羊毛	三、〇〇〇
サウスダウン羊毛	一、三六五
オーストラリア、メリノ羊毛	二、二九五
アンゴラ兎毛	一、七五五
リンコルン羊毛	〇、八〇八
支那羊毛	一、一四八
インデイアン、ジョリア	一、二三三
支那駱駝毛	〇、六三九

ビキユーナ毛	一、八七四

アンゴラ兎毛、メリノ羊毛強伸力比較

アンゴラ兎毛繊維強伸力試驗一〇〇回實驗結果

實驗室內	午前八時	溫度七〇度	濕度七〇%	
	午後三時	溫度七六度	濕度六五%	
		強力	伸度	
最大		五・〇〇グラム	四三・三%	
最小		一・三〇グラム	一一・四%	
平均		二・一四グラム	二三・七%	

メリノ羊毛七〇番繊維強伸力試驗一〇〇回實驗結果

實驗室內	午前八時	溫度六八度	濕度七七%	
	午後三時	溫度七七度	濕度七〇%	
		強力	伸度	
最大		九・七〇グラム	四六・二%	
最小		二・七〇グラム	一三・三%	

平　均　五・三五グラム　二六・五%

アンゴラ兎毛一〇〇番（直徑平均一三・六五ミクロン）の強力一〇〇回實驗の結果は二・一四五グラムなるを以て、アンゴラ兎毛七〇番（直徑一九・〇八ミクロン）の強力は四一・五グラムである。メリノ羊毛七〇番（直徑平均一九・〇八ミクロン）の強力一〇〇回實驗の結果は五・三五グラムであり、從つて強力の比は一〇〇對七七・六である。

アンゴラ兎毛、メリノ羊毛、綿の保温力比較は種々の試驗の結果は左表の通り、アンゴラ兎毛、メリノ羊毛、綿の一分間平均下降温度は夫々〇・八四六八度、一・一一五三度、一・六一三二度でアンゴラ兎毛が最も保温力に富むことが證明されてゐる。

尙熱の傳導度はアンゴラ兎毛が最小で、メリノ羊毛、綿の順序である。從つてアンゴラ兎毛に觸れた時、メリノ羊毛よりも温かく感じ、綿よりも更に温かく感ずる。

標準	アンゴラ兎毛	メリノ羊毛	綿
一分間平均下降温度	二・二六三度	〇・八四六八度	一・一一五三度	一・六一三二度
保温力比率	一	二・四九九〇度	一・八三五〇度	一・三一二〇度

綿を標準とすれば、

	綿	メリノ羊毛	アンゴラ兎毛
一分間平均下降温度	一・六一三二度	一・一一五三度	〇・八四六八度
保温力比率	一	一・四四六〇度	一・九〇五〇度

次にメリノ羊毛とアンゴラ兎毛とを比較すれば、

	メリノ羊毛	アンゴラ兎毛
一分間平均下降温度	一・一一五三度	〇・八四六八度
保温力比較	一	一・三一七〇度

アンゴラ兎毛は各種の染料に對して、羊毛と同樣に親和力がある。而してアンゴラ兎毛は羊毛と其の成分、構造及び生地の色を異にする爲多少發色を異にする。普通にアンゴラ兎毛はメリノ羊毛と混合して紡績するを以て、この場合に於ける染色に兩者を同色に染め上げることが勿論必要である。然しアンゴラ兎毛は羊毛に比して染料の吸收力がよくない爲にやゝ淡く染まる缺點があるけれども、混紡糸は纖維でよく混合して撚り合つて居るから染色すれば外觀上大して目立つ程の斑は生じない。そして最も同色に近からしむる染色法を行ふには、羊毛のみの染色の場合よりも長く沸騰を續け、やゝ浸透惡しきアンゴラ兎毛にも充分吸收せしむるがよい

と考へられる。

以上述べた如くアンゴラ兎毛は強力、伸度、保温力、染色等に於て他種毛と遜色なく、實に優秀なるが上に、兎毛の特性として非常に輕くして温かく感じのよい柔かさを有し、製品として着心地よい事は天下一品である。殊にアンゴラ兎毛は靜電氣の放射作用が旺盛であるから血液の循環を盛んにし、他の製品に比し數倍の保温力を有し、醫療的特効を有するものである。

第二章　兎毛の用途

國内に於ける需要

昭和十二年十二月商工省令が出て、すべての毛製品にはス・フ其の他の纖維を混入しなければならぬことゝなり純毛品の製造が禁止された。だが、反毛を八割五分以上入れるか、又は國産羊毛のみで作るか、乃至はアンゴラ兎毛を二割以上入れた場合に限つてのみ純毛製品を作つて差支へないと云ふことゝなり、アンゴラ兎毛は一躍して混紡上缺くべからざるものとなつて來た。

其の後昭和十三年七月の省令を以て此の規則が更に改正せられて國産羊毛は自家用のものを製造する場合に限る事となり、アンゴラ兎毛は前に二割であつたものが、三割を混ぜよと云ふ事になり、更に其の使用が強化擴大されることゝなつた。

實際八割半混入の反毛を以てしては高級な品は出來ないので、純毛輸入品の禁止せられた今日、勢ひ高級純毛品と云へばアンゴラ兎毛入りに限ることゝなつた。

斯くの如く其の需要を増し來つたアンゴラ兎毛で如何なる品を造るかと云へ、先づ羅紗生地である。

殊に其の柔かき持味を利用して婦人、子供服地及びオーバーコートに重寶とされる。それからメリヤス類であるが、肌着としては兎毛の特質よりして肌と摩擦する際に靜電氣を發生するので健康によい。殊にリユウマチス患者には特効ありと云はれる。外國では Wear angora for health 即ち『アンゴラを着て達者になれ』との言葉さへある。手編毛糸としては其の美しく柔かく毛羽立ちたるを特徴として愛用される。

近來はフエルト帽子の材料が輸入されないので、此のアンゴラ兎毛が利用されて立派な帽子が出來る樣になつた。此の方面に於ても兎毛の需要は中々大なるものがある。其の他の製品と

しては、ショール、マフラー、手袋、毛布、膝掛、ベレー帽等々であり、何れも輕い事、柔い事、温かい事、觸りのよい事で賞用される。製品は鐘紡はじめ各方面で造られ、多くデパートなどで賣られて居るが、手編毛糸、手袋、ベレー帽などは相當海外へも輸出されるに至つた。

又六年前にはアンゴラとは何かとの質問を良く受けたものであるが、今日は最早此の製品を知らないものは無いほどに急速の進歩普及を爲し兎毛の需要も廣く大きくなつた。

海外に於ける需要

海外に於てアンゴラ兎毛を最も多く使用して居る國はイギリスとフランスで、獨逸、米國これに次ぎ、其の他ベルギー、イタリーなどである。

フランスに於ては十六世紀の初め、時のフランソー一世がカルバドーに臺臨せられた折、土地の人達がアンゴラ兎毛の着物を献上したと文献にあると云ふから、起源は相當古いものゝ様に思はれる。現在各種の製品が相當造られて居るが、特に手編毛糸は同國の品が一番良い様である。これはフランス兎毛の靱柔性に富み且つ毛足の長い特徴を利用したにもよらうが、本來フランスは贅澤品を作るのに妙を得た國であるから斯様なものも洵に手際よく作つて居る。其の他ショール、マフラーの如き、帽子、手袋の如き、見事な製品がデパートなどに陳列されて居る。手編毛糸は殆んど總ての毛糸屋の店頭に表れて居る。これ等兎毛製品の色彩、柔かき感じなどが所謂巴里美人の美しさを一層引き立たせて居るのである。英國に於ける羅紗製品の中へは兎毛が澤山に入つて居て混紡混織されて居る。斯様な品では何と云つても英國品が第一である。ベルリン邊でも町を歩く人、又は汽車の中などで兎毛製品を用ひて居る者をよく見受ける。左様に多くの人々の間にアンゴラ兎毛製品は使用されて居るのである。米國は勞賃の高い國であるから養兎は盛んなりとは云はれない。それで多く英佛の品を輸入するか又は外國生産の兎毛を買入れて紡織して居るのである。何んと云つてもアンゴラ兎毛は高價なものであり、其の製品は高級品であるから富裕な一等國でないと多くは使用し得ないのである。

我が國からはこれ等の諸國に向つて昭和六年頃から兎毛を輸出して居る。短い毛即ち一吋半—二吋位までのものは多く國内の用途に當てられて、それ以上の云はゞ國内で容易に消費出來ない高價なものが、昨今では多く外國に賣れて行くので洵に都合のよい事である。外國に於ける兎毛の使用は既に古い事であるから從つて將來に於ける需要も先づ永久的のものと信ぜられる。

附錄

アンゴラ問答集

問　アンゴラ養兎は人のいふ通り有利な仕事でせうか。

答　採毛の收益と肥料と、それに產れた仔兎もいくらかの金に見積ることも出來ますし、多少の費用を差引いても副業としてやれば、一年一頭三圓位の儲けになります。尙一年を通じて毛は賣れますし、その需要及び販路は先づ永久無限と申してもよく、農山漁村の副業として確かに有利な仕事といへます。

問　それでは何頭位から始めればよいでせうか。

答　仔兎一番から始めたら資金は何程もかゝりません。それでなくとも、最初は先づ五、六頭を飼ふ小規模で着手し、それが仔を產むことによつて次第に殖やして行くのが適當でせう。大仕掛にやつて有利なことはいふまでもありませんが、副業としてやることが確實です。

問　アンゴラ兎毛は何に使用されますか。

答　十年以前には兎毛が織物になるとかならぬとか論議されましたが、それは昔の幼稚な時代のことで今では鐘紡はじめ多數の會社でこれを使用して、製品を作りドシ〳〵市場に出して居ります。其の製品としては、羅紗、メリヤス類、手袋、襟卷、毛布、膝掛、婦人用肌着類子供帽子、ベレー帽、フェルト帽、生地毛糸、手編毛糸などであります。殊に近頃は混紡用の材料として重要な役目を務める樣になり、羊毛、ス・フ、人絹其の他と混用され盛んに使用されます。アンゴラ兎毛を混用した場合には、純毛品が許される商工省令も出て居ります又兎毛は英國をはじめフランス、ベルギー、アメリカ等へ相當多量に輸出されます。以前は輸出の方が國內消費よりも多量でしたが、近頃は內地需要の方が殖えて參りましたのは誠に結構なことであります。

問　アンゴラ兎糞尿の肥料價値を敎へて下さい。

答　一、アンゴラ兎一頭一ケ年に排泄する糞尿量

糞約十五貫、尿約十貫、（敷藁、敷草等を加算せず）

（備考）　アンゴラ兎一頭とは成兎にして体重七百匁內外のもの

二、アンゴラ兎一頭一ケ年に排泄する糞尿の肥料成分含有量

	糞（十五貫）		尿（十貫）		合計
	成分量	含有率	成分量	含有率	
窒素	二四七・五匁	一・六五	一九二匁	一・九二	四三九・五匁
燐酸	一三八・〇匁	〇・九二	七匁	〇・〇七	一四五・〇匁
加里	九七・五匁	〇・六五	二〇六匁	二・〇六	三〇三・五匁

三、右の成分量による計算で、アンゴラ兎一頭一ケ年に排泄する糞尿の肥料價格概算

窒素　八十四錢（硫安十貫三圓八十三錢として窒素二〇%であるから百匁の窒素は十九錢となる）

燐酸　二十錢（過燐酸十五貫四圓として含有量は一九%であるから百匁十四錢となる）

加里　四十三錢（硫酸加里十貫六圓八十錢であるから百匁の加里は十四錢となる）

以上三要素の單價に兎糞尿合計の成分量を乘じたもの

（備考）肥料價格は昭和十三年八月二十三日調べ

合計　一圓四十七錢

問　日本アンゴラ產業株式會社の營業につきお尋ねします。

答　此の會社の起りは遠く大正の末期、昭和の初め頃であります。名古屋に於ける有志の人たちが種兎の輸入、飼育研究、農村への頒布等に從事したのですが、大同團結して組合となり會社となつたのは其の後です。昭和六年アンゴラ養兎の受難時代に卒先して全國に呼びかけて兎毛の買入れをなし、これを外國に輸出し、又製品の製造賣擴めに努力し、而して今日に至つて居ります。全國多數の飼育者から直接の送毛を受けて居る外、各地の組合、特約集毛人又兎毛問屋などゝも聯絡を取つて居ります。買入れはすべて現金即日送金主義です。その集毛の一部を以て兎毛製品を造り、又一部は英、佛、米、白、和等へ直輸出します。近年は其の派生的事業として軍需用兎毛皮及び兎に關する一切の仕事、羊毛其の他の各種毛類、纖維類、毛羽等の取引、一般輸出入貿易もやつて居ります。本社は名古屋の松坂屋裏通り、飼育研究所は市外大高驛前にあります。

問　同會社の兎毛規格と現在の買入れ相場をお知らせ下さい。

答　左の通りです。

アンゴラ兎毛規格（一吋は曲尺の八分）

		買入値段（昭和十三年十一月現在）	
		一匁替	一封度替（百二十匁）
特等品	長さ三吋半以上切口を揃へて並べたもの	十錢	十二圓
一等品	長さ三吋以上切口を揃へて並べたもの	七錢一厘	八圓五十二錢
二等品	長さ二吋半以上切口を揃へて並べたもの	六錢五厘	七圓二十錢 六圓六十錢
三等品上	長さ二吋半以上	五錢	六圓
三等品下	長さ二吋以上	四錢六厘	五圓五十二錢
四等品上	長さ一吋半以上	四錢四厘	五圓二十八錢
四等品中	長さ一吋以上	四錢	四圓八十錢
四等品下	長さ一吋内外	三錢六厘	四圓三十二錢
櫛毛上	長い毛の兎を手入した時抜けた毛	四錢四厘	五圓二十八錢
フェルト上	固まり毛（純白のもの）	三錢	三圓六十錢
刺毛上	オニ毛、トビ毛とも稱する毛	二錢	二圓四十錢
其の他	短毛、粗毛、屑毛、汚れ毛、蒙屑、飼料等の混りたるものは其の程度により格付致します		

御注意 品により値段に多少の高低はあります。
御送附兎毛の格付及び目方は本社へ御一任下さい。

問　同會社が兎毛の買入につき注意せられる點如何。

答一、特等及び一、二等の毛には汚れ、縺れのないやう特に御注意を願ひます。

二、特等及び一、二等の毛は全部切口を揃へて下さい。

三、餘りに刺毛の多きもの又は切口フェルトせるもの、縺れたもの、汚れたもの、虫の發生せるもの、或は光澤惡しきものは等級落となります。

四、長さ二インチ位に延びましたなら、速かに刈つていたゞきます。毛を刈ることが遲れますと次第に光澤を失ひ、汚れ且つフェルトを生じて値段が下り、兎も健康を害します。

五、三等品以下の方が、特等品、一、二等品のものよりも回數が多く刈れますのと、フェルトが少いので却つて有利のやうに思はれます。

六、刈り取るときには必ず櫛を入れ、藁屑等を除いてから顎の下、腹、肢まで殘さず刈つて下さい。

七、特に乾燥をよくし濕氣のないやうに又防虫に御注意下さい。

八、普通小包郵便、鐵道宅扱、又は客車便、商品見本等で御送附下されば着荷次第、拜見の上、即日送金いたします。三等下までは何かの箱に入れて御送りを願ひます。

九、商品見本は風袋共百二十瓦（三十二匁）以下ですと郵税が三錢です。但しこの場合は上包みを紐でしばらないこと、又中の兎毛が固まらぬやうに包裝し、中身の少し見へるやうにして置くこと。

十、荷造はしつかりと、住所姓名は楷書で明瞭詳細に書いて下さい。

問　荷造發送について伺ひます。

答　數量の多少により相違があります。多量に御送附の場合には石油鑵が一番安全で、幾分目方には關係しますが、結局毛傷をめないのと濕氣に安全であるので、御得のやうに思はれます。尙御注意したいのは兎毛が同社に到着しますとき、荷造が壞れて中味がはみ出したり、よごれてゐたりすることです。すると皆様への送金高も少くなります。又四等品上ですと麩（カラコ）の袋をよく掃除して、御使用になるのがよいと思ひます。但し餘り詰めこみますと毛が固まりますから適當に入れて下さい。ダンゴ毛ですと毛に色のつかない袋か紙で結構です。尙包裝に量目を御記入下されば好都合です。新聞紙は毛に色がつくことがあり、格落となりますから御用ひにならないやう。又發送に際し少量ならば商品見本として御送附下されば僅かな運賃で濟みます。但しこの場合は郵便法により中身が少し見えるやうに包裝することは前問に對する答と同様です。

跋

日支事變が長期に亘る解決を強いられてゐることを痛感した私は、今春三月、日本アンゴラ産業株式會社の斡旋で名古屋市外大高町の見市アンゴラ園からアンゴラ兎の雌雄一番を買ひ求めてこれを飼育し始めた。このアンゴラ兎は四月に入つて、八頭の仔兎を産んだが、梅雨期に入つて、初心者の管理不行屆の爲、遺憾ながらその四頭を失つた。だが、殘りの四頭は今健全に生きてゐる。そしてその成長の迅速なる、既に一回の採毛を終へ、正に第二回の採毛期を迎へてゐるのみならず、來月には完全なる親兎となり、交配すらも期待されてゐる。そして親兎は昨日を以て完全に交尾したので、この冬には二、三十頭の仔兎を得るであらうことを想ふとき、ぢつとはしてゐられない喜びと、ぢつとはしてゐられない勞働の愉悅を感じつゝある。

言ふまでもなく、養兎は飼料採取の勞働そのものである。野に出でゝ、或はたんぽゝ、或はおうばこ、或はちゝ草、その他雜草を採取するの勞働、そして私は今十年以來百姓のまね事をしてゐるので、畑を耕して、飼料としての諸種の野菜物を栽培するの勞働、或はほんとうの百姓の畑に遺棄されてゐる薩摩芋の蔓、芋の屑、人蔘葉、人蔘の屑を拾ふの勞働、そして、これ

等の收穫物や、拾得物を兎が食ひ得るやう、適當に切るの勞働、これ等の勞働の統計、これが養兎業である。そして私はこれ等の勞働を通して、健康を保有すると共に、一方に於て採毛によつて、僅かながらも、既に何がしかの收益を擧げてゐる。來春にもなれば、その收益には決して馬鹿にならないものがあるだらう。

これと同時に、前記の如く私は十年以來、百姓のまね事をしてゐるので、兎糞を柿、枇杷、無花果等、その他一切の野菜の肥料に充てゝゐる。短期間の事であるから、その成績は今こゝにこれを示すことはできないが、兎尿を西瓜及び胡瓜の肥料として多大の効果のあつたことだけは、茲にこれを保證し得る。何ぜなら、絶對的とはいへないけれども、それは驅虫劑として多大の効果を奏し、瓜蠅の飛來を最大級に統制し得たからである。

かくしるし來ると、私に取つては、アンゴラ養兎は純然たる一の副業である。これ等の關係と、併せて前日本アンゴラ産業株式會社長だつた故八木保三氏と私との親交及びアンゴラ兎を飼ひ始めた折に斡旋の勞を取られた同社と私との關係上、養兎の經驗に日頗る淺きにも拘らず心臟を强くして筆を執つたのである。

終りに臨んで、言葉通りに全然 Dumb Creature であり、そして極めて柔順に、舍内に入る毎

に、いそ〳〵として私を迎えてくれる可愛い〳〵者の健康を衷心から祈つて筆を擱く。

昭和十三年十月十日

桐生悠々

改訂アンゴラ讀本
（定價五拾錢）

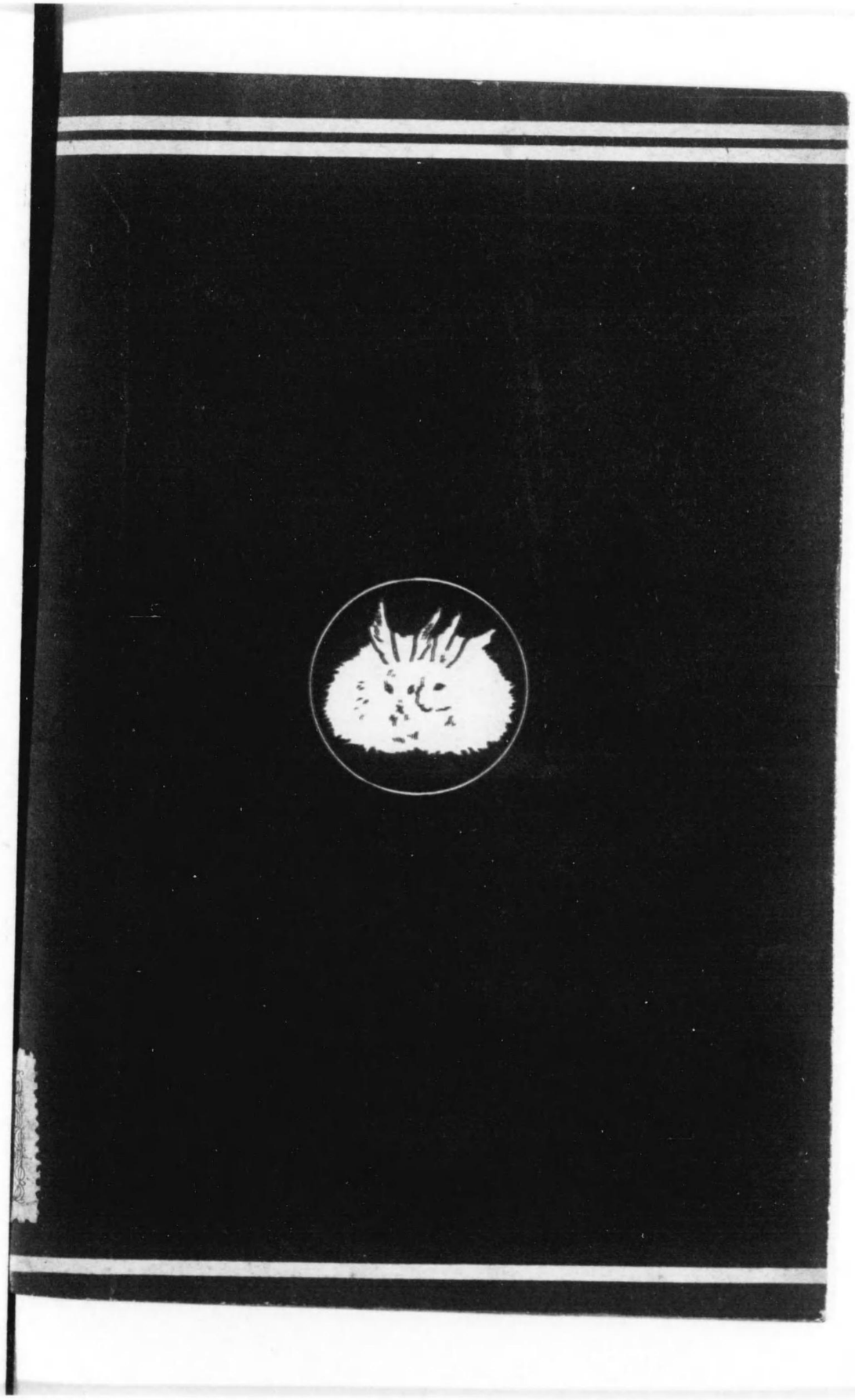
昭和九年三月十日印刷
昭和九年三月十五日發行
昭和九年四月十五日再版發行
昭和十三年十一月二十日改訂三版發行

編者兼發行人　名古屋市千種區田代町坂上七九番地　伊藤勝次
印刷人　名古屋市東區相生町二丁目十五番地　松原義一
印刷所　名古屋市東區相生町二丁目十五番地　興文社

不許複製

發行所　名古屋市中區南鍛冶屋町二丁目六番地
日本アンゴラ産業株式會社
電話中③一七一三番　三三一二番
振替名古屋一六九二四番

發賣所　名古屋市昭和區瑞穂通り　有畜農業社　振替名古屋六六壹壹番

387
110

終